

2025年2月27日
株式会社日本政策金融公庫

食に関する志向 「経済性志向」と「簡便化志向」が調査開始以来最高値
～「簡便化志向」の行動は「冷凍食品を活用」が最多～
< 消費者動向調査（令和7年1月調査） >

日本政策金融公庫農林水産事業は、「消費者動向調査(令和7年1月調査)」を実施しました。食に関する志向のほか、日本の将来の食料輸入についての考え、環境に配慮した農産物・加工食品の購入について調査しました。

調査結果のポイントは以下のとおりです。

【食に関する志向】

- 食に関する志向は、令和6年7月調査に引き続き「経済性志向」「健康志向」「簡便化志向」が3大志向となりました。
- 「経済性志向」（45.6%、前回比+1.4ポイント）は平成20年の調査開始以来最高を更新しました。令和5年7月調査以来40%超えが続いており、高い水準を維持しています。
- 「経済性志向」を選んだ理由は「物価が上昇しているから」（54.2%）が最も高くなりました。
- 「健康志向」（44.0%、同+0.8ポイント）は上昇しました。
- 「簡便化志向」（40.3%、同+4.8ポイント）は、調査開始以来初めて40%超えとなりました。年代別では70代（27.5%、前回比+9.7ポイント）で大きく上昇しました。
- 「簡便化志向」の行動は「冷凍食品を活用」（44.3%）が最も高くなりました。

【日本の将来の食料輸入についての考え】

- 日本の将来の食料輸入について、“不安がある”とする割合は81.2%となりました。
- “不安がある”とした理由は「気候変動や自然災害が輸出国における食料生産に影響を与え、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから」（32.7%）が最も高くなりました。

【環境に配慮した農産物・加工食品の購入】

- 農産物購入時、環境に配慮した農産物かどうかを“気にかけている”とする割合は42.1%で、環境に配慮した方法で生産された農産物としてよく購入するものは「地産地消の農産物」（51.0%）が最も高くなりました。
- 環境に配慮した方法で生産された農産物を選ぶ理由は「食べる人の健康に配慮しているから」（64.3%）が最も高くなりました。

■詳細は、添付のレポートをご参照ください。

消費者動向調査（令和7年1月）

～目次～

I.食に関する志向	P 3～14
II.国産品かどうかを気にかけるか	P15～17
III.国産食品の輸入食品に対する価格許容度	P18～19
IV.日本の将来の食料輸入についての考え	P20～21
V.健康的な食事のための食料品の購入と食料品店舗へのアクセス状況	P22～25
VI.環境に配慮した農産物・加工食品の購入	P26～34

○調査概要

- 調査時期：令和7年1月
- 調査方法：インターネット調査
- 調査対象：全国の20歳代～70歳代の男女2,000人（男女各1,000人）

※インターネット調査であるため、回答者はインターネット利用者に限られる。

※図表に表示している構成比は小数点第2位以下を四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合や、構成比の内訳の合計が100%にならない場合がある。

○回答者数の内訳

年代	回答者数
20代	277
30代	291
40代	367
50代	390
60代	322
70代	353
合計	2,000

地域	回答者数
北海道	81
東北	131
関東	717
中部	331
近畿	349
中国	118
四国	57
九州・沖縄	216
合計	2,000

<お問い合わせ先>

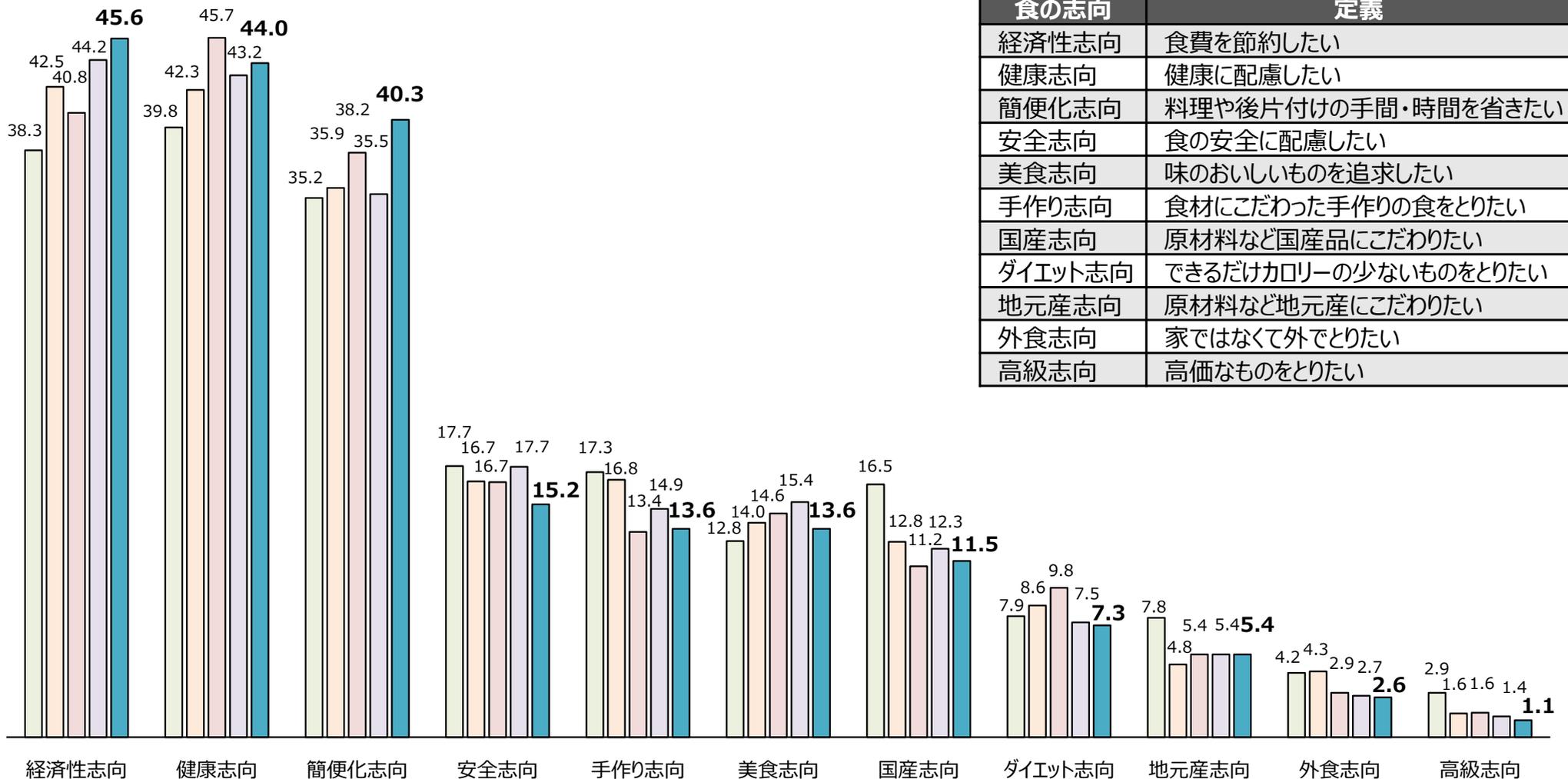
日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部（担当：黒川、垣尾） TEL：03-3270-5585
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

I.食に関する志向（食の志向）

- ・現在の食の3大志向は、前回までの調査と同じく「経済性志向」「健康志向」「簡便化志向」となった。
- ・3大志向は「経済性志向」（45.6%、前回比+1.4ポイント）、「健康志向」（44.0%、同+0.8ポイント）、「簡便化志向」（40.3%、同+4.8ポイント）と、いずれも前回調査から上昇した。
- ・3大志向以外の志向は、いずれも前回調査と同率または低下となった。

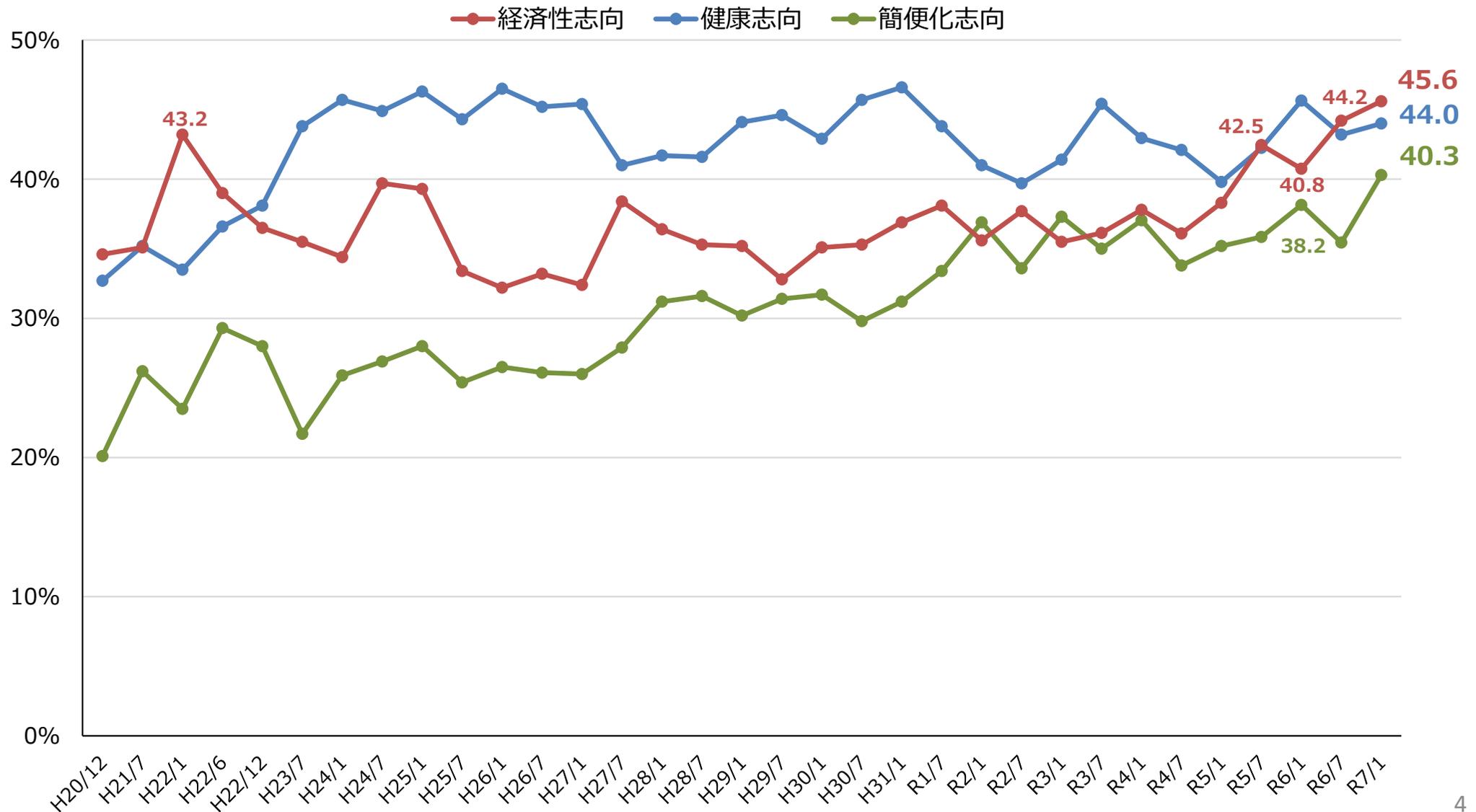
□R5/1 □R5/7 □R6/1 □R6/7 ■R7/1

（必ず2つ回答、%）



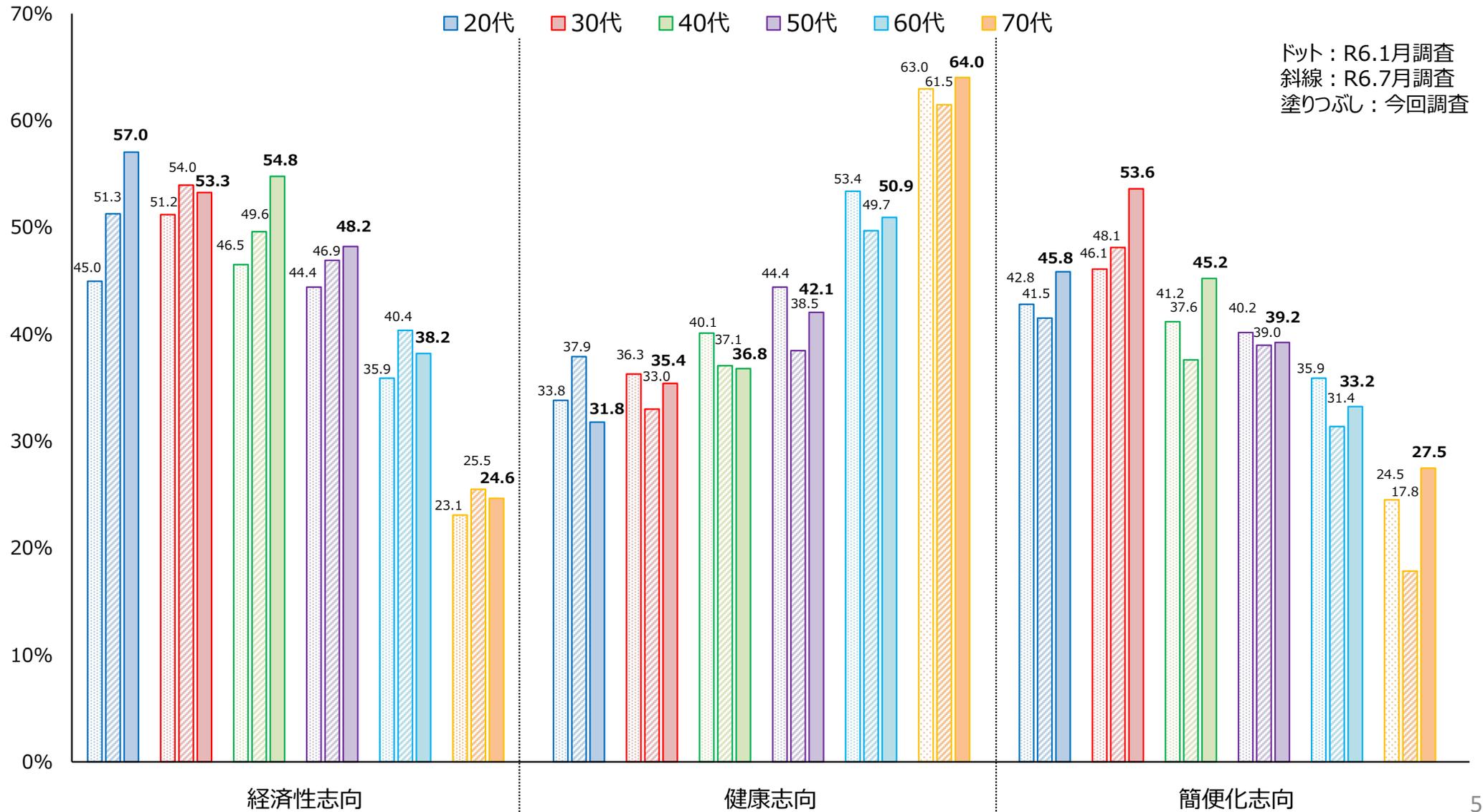
I.食に関する志向（3大志向、平成20年12月調査からの推移）

- ・「経済性志向」(45.6%)は、令和5年7月調査以降、40%超えの高水準を維持している。今回調査では、前回調査に引き続き調査開始（平成20年）以来最高を更新した。
- ・「簡便化志向」(40.3%)は、これまで最高だった令和6年1月調査を上回り、調査開始来初の40%超えとなった。



I.食に関する志向（3大志向、年代別）

- ・「経済性志向」は20代（前回比+5.7ポイント）と40代（同+5.2ポイント）で大きく上昇した。
- ・「健康志向」は30代と50代～70代で上昇したが、20代（同▲6.1ポイント）では大きく低下した。
- ・「簡便化志向」はすべての年代で上昇し、70代（同+9.7ポイント）、40代（同+7.6ポイント）、30代（同+5.5ポイント）で大きく上昇した。

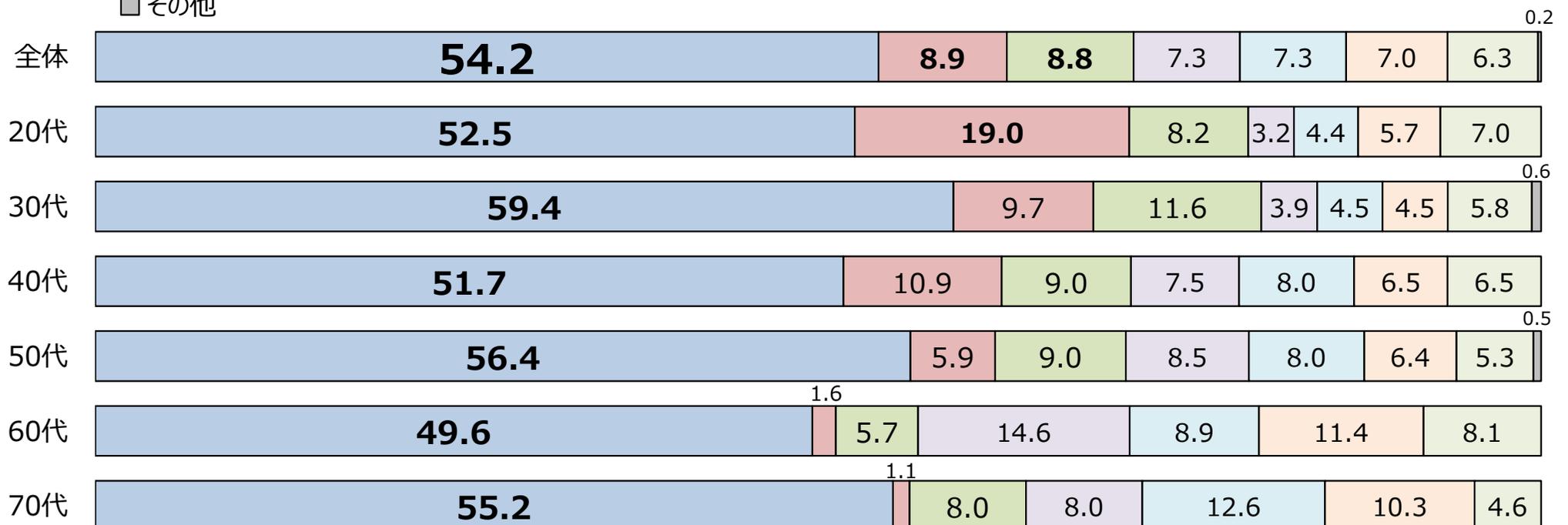


I.食に関する志向（経済性志向を選んだ理由）

- ・「経済性志向」を選んだ理由は「物価が上昇しているから」（54.2%）が最も高く、次いで「他の好きなことにお金を使いたいから」（8.9%）、「将来や老後のために貯蓄を増やしたいから」（8.8%）の順となった。
- ・年代別では、20代の「他の好きなことにお金を使いたいから」（19.0%）と回答した割合が他の年代と比較して高くなった。

- 物価が上昇しているから
- 他の好きなことにお金を使いたいから
- 将来や老後のために貯蓄を増やしたいから
- 収入が減ったから
- お金をかけなくても美味しいものが食べられるから
- 食へのこだわりがあまりないから
- 節約することが好きだから
- その他

（単一回答/「経済性志向」と回答した方、%）



I.食に関する志向（経済性志向の行動）

- ・「経済性志向」の行動は「できるだけ安い商品を選んで購入」（73.0%）が最も高く、次いで「セールやポイントカード等を活用し、安く購入」（56.0%）、「必要以上の商品を購入しない」（39.4%）の順となった。
- ・年代別では、60代、70代の「なるべく外食しない」が他の年代と比較して高くなった。

（3つまで回答/「経済性志向」と回答した方、%）

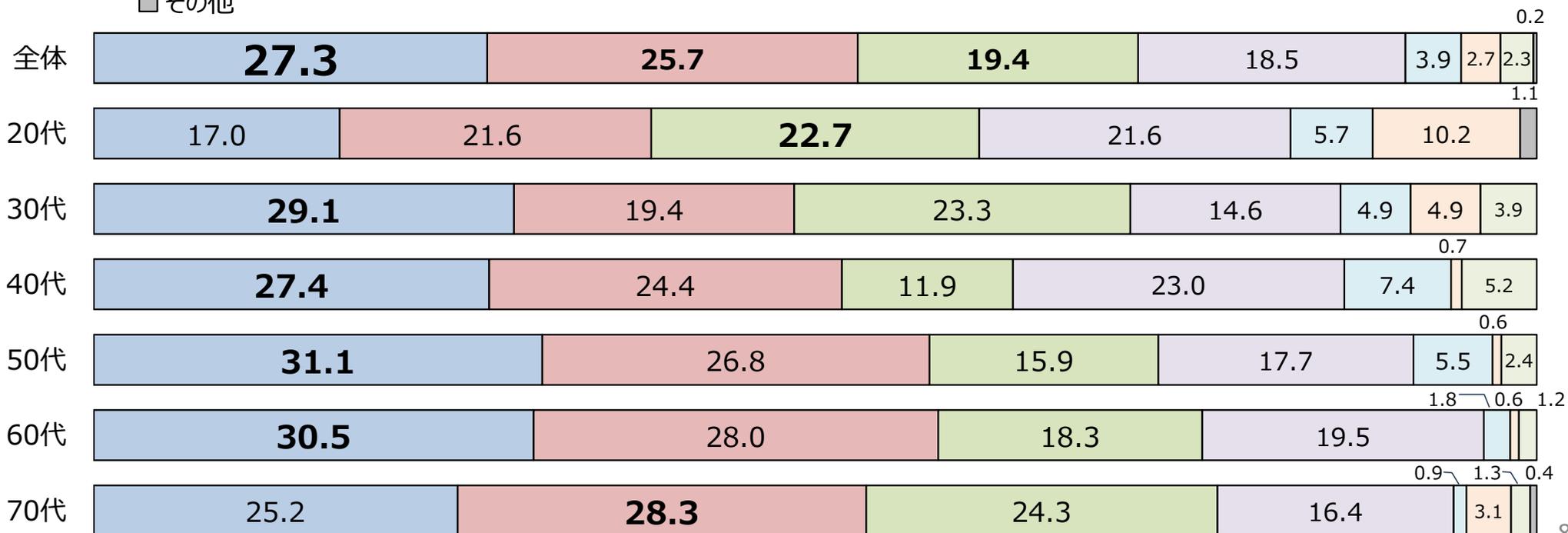
	できるだけ安い商品を選んで購入	セールやポイントカード等を活用し、安く購入	必要以上の商品を購入しない	まとめ買いなど、効率の良い買い物を	なるべく外食しない	総菜や弁当など、出来合いのもの	調理の際に、電気、ガス、水道などをなるべく使わない	心掛けていない	その他
全体	73.0	56.0	39.4	34.2	25.7	7.5	3.9	3.7	0.4
20代	74.7	53.2	39.9	32.3	22.2	7.0	1.9	5.1	0.0
30代	70.3	55.5	36.1	39.4	18.7	8.4	1.9	7.1	0.0
40代	74.6	54.7	31.8	34.3	23.4	6.5	6.0	3.0	1.0
50代	76.1	59.6	42.0	30.9	23.4	5.9	4.8	2.7	0.5
60代	68.3	55.3	47.2	33.3	35.8	8.9	3.3	3.3	0.8
70代	71.3	58.6	44.8	36.8	40.2	10.3	5.7	0.0	0.0

I.食に関する志向（健康志向を選んだ理由）

- ・「健康志向」を選んだ理由は「自身や家族の健康状態に改善すべきところがあるから」（27.3%）が最も高く、次いで「健康であることが最も経済的だから」（25.7%）、「既に健康的な状態であり、今後も健康を維持したいから」（19.4%）の順となった。
- ・年代別では、20代は「既に健康的な状態であり、今後も健康を維持したいから」、30代～60代は「自身や家族の健康状態に改善すべきところがあるから」、70代は「健康であることが最も経済的であるから」が最も高くなった。

- 自身や家族の健康状態に改善すべきところがあるから
- 健康であることが最も経済的であるから
- 既に健康的な状態であり、今後も健康を維持したいから
- 健康状態に問題はないが、今よりもっと健康的な状態になりたいから
- 忙しい、よく眠れないなど不健康な状態なので、食生活は健康でありたいから
- スポーツや身体づくりを楽しみたいから
- 健康に良いもののほうが美味しいから
- その他

（単一回答/「健康志向」と回答した方、%）



I.食に関する志向（健康志向の行動）

- ・「健康志向」の行動は「野菜を多く食べる」（62.6%）が最も高く、次いで「バランスよく食べる」（56.7%）、「塩分を減らす」（28.6%）の順となった。
- ・年代別では、20代は「バランスよく食べる」が最も高く、その他の年代では「野菜を多く食べる」が最も高くなった。

（3つまで回答/「健康志向」と回答した方、%）

	野菜を多く食べる	バランスよく食べる	塩分を減らす	たんぱく質を多く摂る	よく噛んでゆっくり食べる	身体に良いとされるものを多く摂る	糖質を減らす	脂肪分を減らす	1日のカロリーの量を計算	特定の食品添加物を避ける	カルシウムを多く摂る	穀物を多く食べる	心掛けていることはない	その他
全体	62.6	56.7	28.6	25.1	19.3	18.3	12.0	10.7	7.4	6.1	5.0	3.1	2.6	0.8
20代	46.6	50.0	9.1	30.7	21.6	14.8	11.4	10.2	15.9	9.1	10.2	3.4	4.5	0.0
30代	60.2	49.5	25.2	25.2	16.5	17.5	6.8	2.9	10.7	3.9	4.9	1.0	5.8	0.0
40代	60.0	52.6	22.2	25.2	16.3	17.0	10.4	11.9	5.9	7.4	6.7	4.4	3.0	0.7
50代	67.1	59.1	26.2	22.6	13.4	17.7	12.8	11.0	6.1	6.7	3.0	4.3	2.4	1.2
60代	65.2	59.1	39.6	21.3	16.5	23.2	17.7	11.0	4.9	5.5	3.0	3.0	2.4	0.6
70代	66.4	61.5	35.4	27.4	27.9	17.7	11.1	13.3	6.2	5.3	4.9	2.2	0.4	1.3

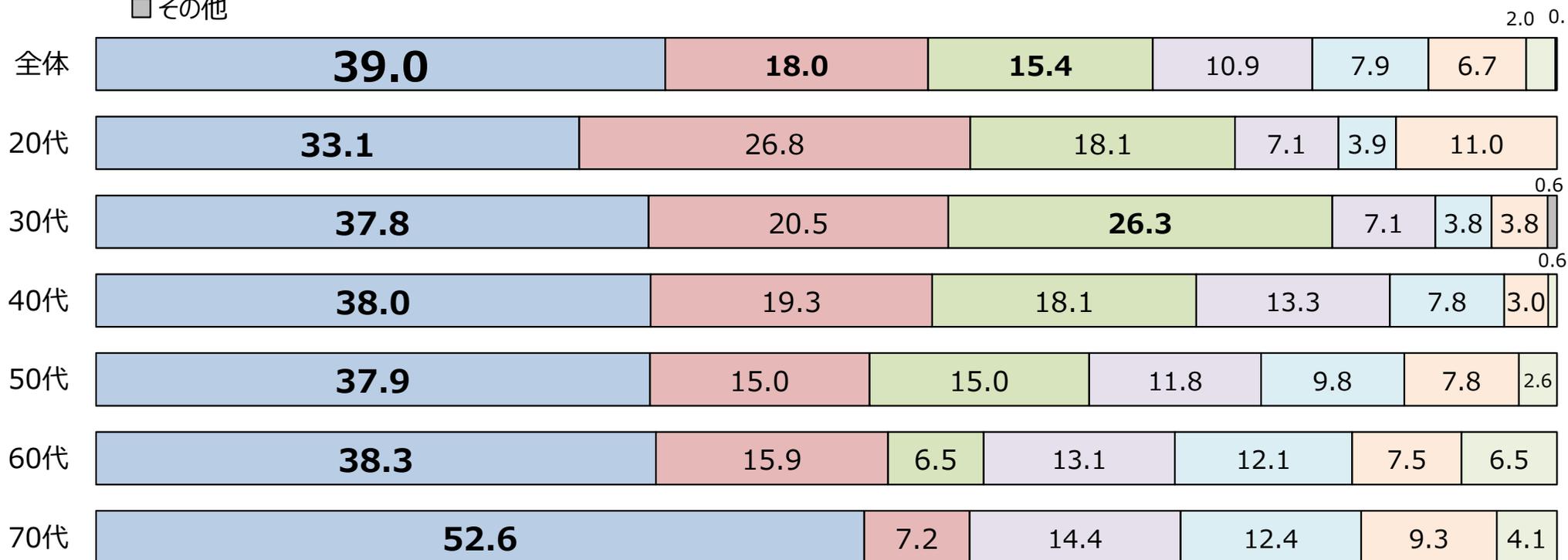
I.食に関する志向（簡便化志向を選んだ理由）

・「簡便化志向」を選んだ理由は「調理・片付けなどが面倒だから」（39.0%）が最も高く、次いで「他の好きなことに時間を使いたいから」（18.0%）、「仕事、育児、介護などで時間がかけられないから」（15.4%）の順となった。

・年代別では、70代の「調理・片付けなどが面倒だから」、30代の「仕事、育児、介護などで時間がかけられないから」が他の年代と比較して高くなった。

- 調理・片付けなどが面倒だから
- 他の好きなことに時間を使いたいから
- 仕事、育児、介護などで時間がかけられないから
- 料理が得意ではないから
- 簡単に済ますことが節約になるから
- 食へのこだわりがあまりないから
- 身体の状態から調理が難しいから
- その他

（単一回答/「簡便化志向」と回答した方、%）



I.食に関する志向（簡便化志向の行動）

- ・「簡便化志向」の行動は「冷凍食品を活用」（44.3%）が最も高く、次いで「弁当惣菜など、調理の必要がないものを多く購入」（29.5%）、「カット野菜、カットフルーツなどを活用」（28.4%）となった。
- ・年代別では、2番目に多い行動は、30代は「カット野菜、カットフルーツなどを活用」、60代は「品数・材料を少なくする」、その他の年代は「弁当や惣菜など、調理の必要がないものを多く購入」となった。

（3つまで回答/「簡便化志向」と回答した方、%）

	冷凍食品を活用	弁当や惣菜など、調理の必要がないものを多く購入	カット野菜、カットフルーツなどを活用	レトルト食品・缶詰・瓶詰を活用	品数・材料を少なくする	合わせ調味料を活用	機能性が高い電化製品等を活用	製品を活用	ミールキット・半調理	食材や食事の宅配、デリバリーを活用	心掛けていることはない	その他
全体	44.3	29.5	28.4	26.8	26.2	14.8	4.5	3.7	3.5	19.2	2.7	
20代	40.2	31.5	26.8	26.0	28.3	12.6	3.1	3.1	3.9	19.7	1.6	
30代	47.4	26.3	30.8	25.6	26.3	12.8	7.1	4.5	1.9	18.6	5.1	
40代	44.0	28.9	27.1	24.7	21.7	11.4	5.4	4.2	6.0	20.5	1.8	
50代	36.6	32.7	27.5	30.1	24.8	18.3	3.3	2.0	2.6	21.6	2.0	
60代	49.5	27.1	32.7	26.2	33.6	21.5	5.6	7.5	1.9	14.0	2.8	
70代	51.5	30.9	25.8	28.9	24.7	13.4	1.0	1.0	4.1	19.6	3.1	

I.食に関する志向（美食志向を選んだ理由）

- ・「美食志向」を選んだ理由は「美味しいものを食べることが喜びにつながるから」（60.5%）が最も高く、次いで「どうせお金がかかるならできるだけ美味しいものを選んで食べたいから」（12.2%）となった。
- ・年代別では、70代の「食事の量は少なくてよいので、代わりに美味しいものを選びたいから」「美味しいものを食べることが健康につながるから」が他の年代と比較して高くなった。

- **美味しいものを食べることが喜びにつながるから**
- どうせお金がかかるならできるだけ美味しいものを選んで食べたいから
- 食事の量は少なくてよいので、代わりに美味しいものを選びたいから
- 普段は節約しているので、ハレの日に美味しいものを選びたいから
- 美味しいものを食べることが健康につながるから
- 美味しいものや美味しい店をたくさん知りたいから
- お金のことは気にせず、できるだけ美味しいものを選んで食べたいから

（単一回答/「美食志向」と回答した方、%）



I.食に関する志向（美食志向の行動）

- ・「美食志向」の行動は、「おいしい飲食店の情報をチェック」（38.7%）が最も高く、次いで「旬の食べ物を買う」（33.9%）、「好きな食材や料理を多く買う」（29.2%）となった。
- ・年代別では、20～50代は「おいしい飲食店の情報をチェック」、60代、70代は「旬の食べ物を買う」が最も高くなった。
- ・60代の「おいしい食材の情報をチェック」、70代の「品質のよい商品を目利き」「こだわりをもって作られた食材や料理を多く買う」が他の年代と比較して高くなった。

（3つまで回答/「美食志向」と回答した方、%）

	おいしい飲食店の情報をチェック	旬の食べ物を買う	好きな食材や料理を多く買う	日常の食事とハレの日の食事	家族や友人と一緒に選ぶ	品質のよい商品を目利き	おいしい食材の情報をチェック	こだわりをもって作られた食材や料理を多く買う	心掛けていない	その他
全体	38.7	33.9	29.2	25.8	25.8	19.6	16.2	10.3	13.3	0.4
20代	39.3	17.9	28.6	23.2	23.2	10.7	14.3	3.6	23.2	0.0
30代	44.4	38.9	25.0	27.8	22.2	19.4	13.9	8.3	8.3	0.0
40代	44.3	26.2	34.4	31.1	24.6	11.5	14.8	6.6	11.5	1.6
50代	36.2	23.4	29.8	19.1	34.0	27.7	14.9	12.8	19.1	0.0
60代	43.2	48.6	18.9	24.3	21.6	24.3	32.4	16.2	8.1	0.0
70代	20.6	67.6	35.3	29.4	29.4	32.4	8.8	20.6	2.9	0.0

I.食に関する志向（安全志向の行動）

- ・「安全志向」の行動は「鮮度の良い商品を選んで購入」（53.1%）が最も高く、次いで「外国産の商品を避け、国産の商品を購入」（43.6%）、「特定の食品添加物が入った商品を買って購入」（42.2%）となった。
- ・年代別では、20代、40代では「外国産の商品を避け、国産の商品を購入」、その他の年代では「鮮度の良い商品を選んで購入」が最も高くなった。

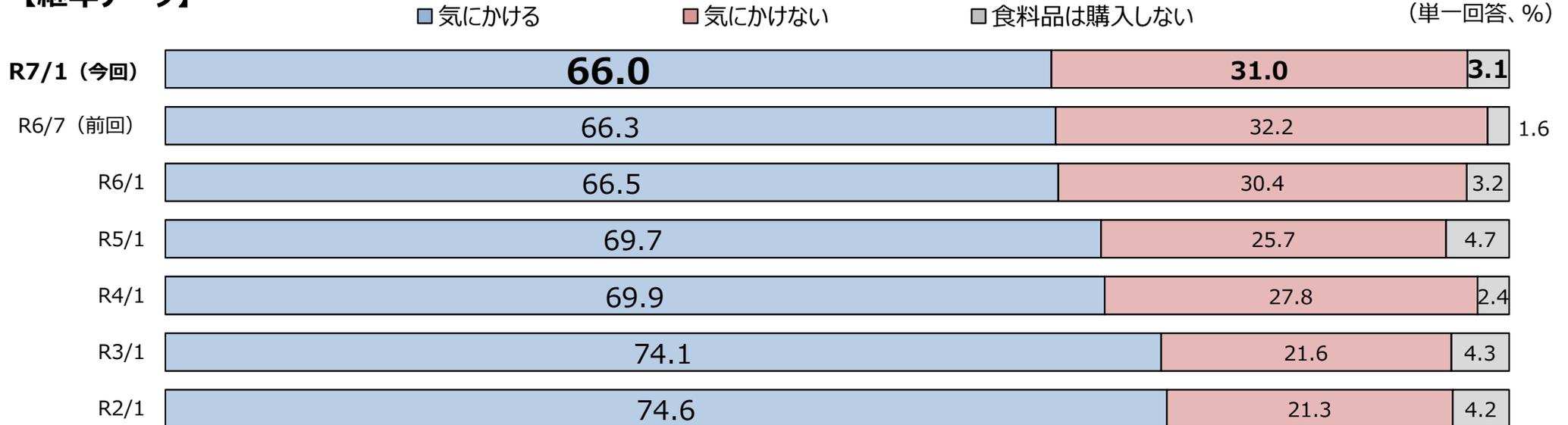
（3つまで回答/「安全志向」と回答した方、%）

	鮮度の良い商品を選んで購入	外国産の商品を避け、国産の商品を購入	特定の食品添加物が入った商品を買って購入	生産履歴がわかるものを選んで購入	有機栽培や無農薬の生鮮品を選んで購入	アレルギーにならない食べ物	心掛けていないこと
全体	53.1	43.6	42.2	27.7	25.1	9.6	10.9
20代	35.7	42.9	35.7	3.6	3.6	17.9	21.4
30代	38.7	35.5	35.5	19.4	19.4	6.5	25.8
40代	44.2	51.2	41.9	23.3	27.9	4.7	11.6
50代	46.2	32.7	42.3	36.5	30.8	17.3	11.5
60代	54.7	45.3	42.2	26.6	31.3	10.9	9.4
70代	71.8	48.2	47.1	36.5	24.7	4.7	2.4

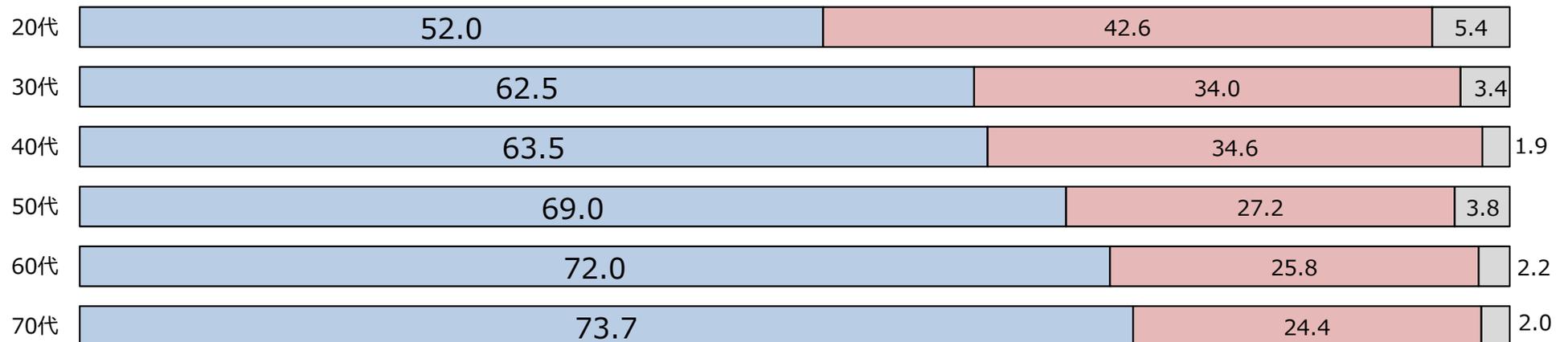
Ⅱ.国産品かどうかを気にかけるか（食料品購入時）

- ・食料品を購入するときに国産品かどうかを「気にかける」割合（66.0%、前回比▲0.3ポイント）は前回調査から横ばいで推移。長期的には減少傾向。
- ・年代別では、「気にかける」は年代が高くなるほど割合が高い傾向となった。

【継年データ】



【年代別】



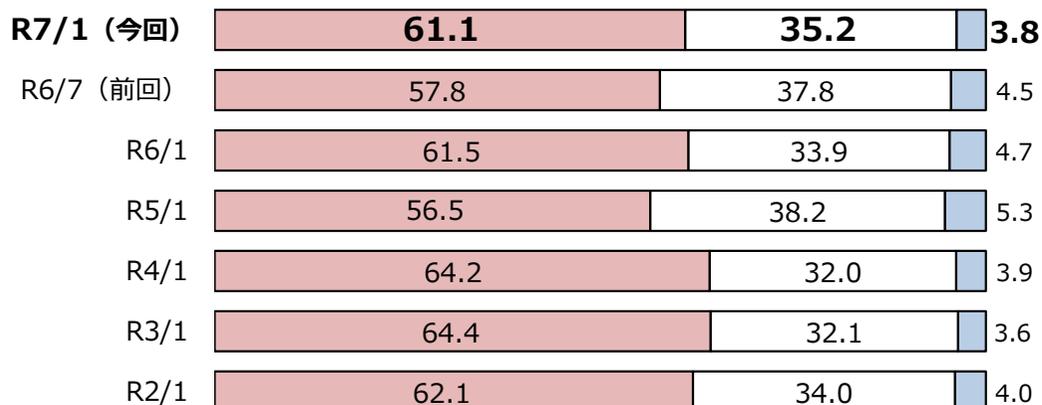
Ⅱ.国産品かどうかを気にかけるか（国産食品・輸入食品に対するイメージ）

- ・国産食品（国産原料の食品を含む）に対するイメージは、価格面は「高い」（61.1%、前回比+3.3ポイント）の割合が上昇した。安全面は「安全である」（63.4%、同±0.0ポイント）の割合は前回から横ばいとなった。
- ・輸入食品（輸入原料の食品を含む）に対するイメージは、価格面は「安い」（45.3%、同+2.5ポイント）の割合が上昇した。安全面は「安全面に問題がある」（33.2%、同+1.4ポイント）の割合が上昇した。

【価格面】

■高い □どちらともいえない ■安い

<国産食品>



<輸入食品>



【安全面】

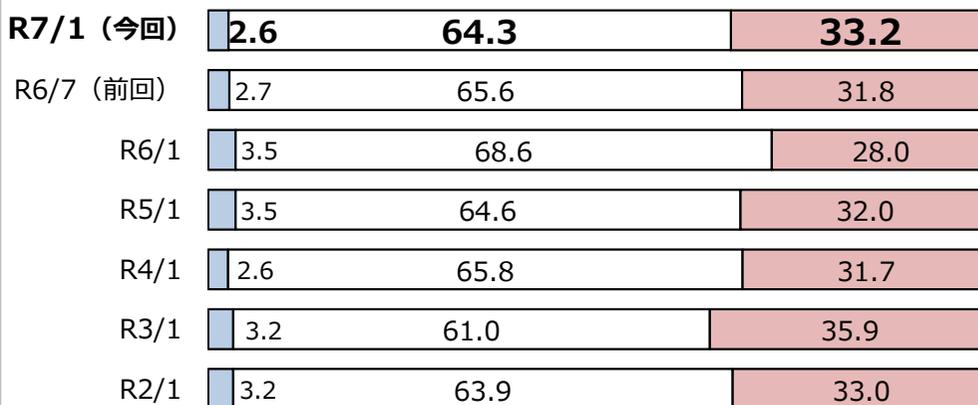
(各項目単一回答、%)

■安全である □どちらともいえない ■安全面に問題がある

<国産食品>



<輸入食品>



Ⅱ.国産品かどうかを気にかけるか（国産品・輸入品の品目別の価格イメージ）

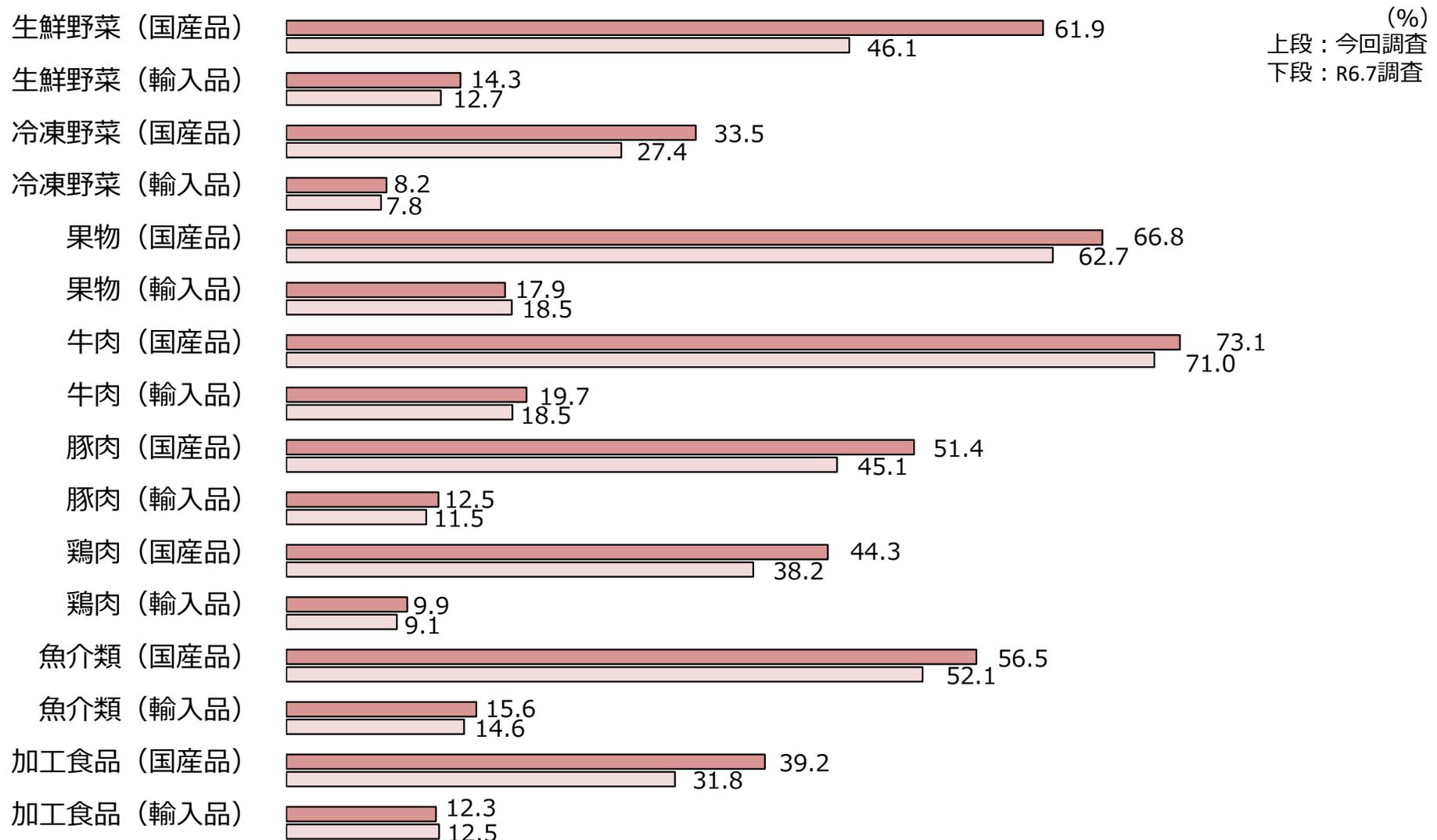
- ・国産品、輸入品の価格に対するイメージを品目別に尋ねたところ、国産品が「高いと感じる」と回答した割合が最も高かった品目は「牛肉」（73.1%）で、次いで「果物」（66.8%）、「生鮮野菜」（61.9%）となった。
- ・輸入品が「安いと感じる」と回答した割合が最も高かった品目は「鶏肉」（43.8%）で、次いで「豚肉」（37.6%）、「牛肉」（35.7%）となった。
- ・国産品と輸入品で「高いと感じる」割合に最も差が大きい品目は「牛肉」（53.4ポイント）で、最も差が小さい品目は「冷凍野菜」（25.3ポイント）となった。

□ 高いと感じる □ どちらともいえない □ 安いと感じる □ 手に取っていないのでわからない （各項目単一回答、%）

生鮮野菜（国産品）	61.9				28.1	4.6	5.5
生鮮野菜（輸入品）	14.3	47.6		23.6	14.7		
冷凍野菜（国産品）	33.5		43.2		8.9	14.4	
冷凍野菜（輸入品）	8.2	39.1		34.6		18.2	
果物（国産品）	66.8				23.7	2.7	6.9
果物（輸入品）	17.9	47.0		24.3		10.9	
牛肉（国産品）	73.1				18.3	1.8	6.8
牛肉（輸入品）	19.7	36.0		35.7		8.8	
豚肉（国産品）	51.4			37.4		5.4	5.9
豚肉（輸入品）	12.5	40.5		37.6		9.5	
鶏肉（国産品）	44.3			40.1		9.4	6.3
鶏肉（輸入品）	9.9	35.1		43.8		11.3	
魚介類（国産品）	56.5			33.4		3.8	6.4
魚介類（輸入品）	15.6	50.8		22.8		10.9	
加工食品（国産品）	39.2			49.4		5.0	6.5
加工食品（輸入品）	12.3	55.5		22.1		10.2	

Ⅱ.国産品かどうかを気にかけるか（国産品・輸入品の品目別で「高いと感じる」人、前回比較）

- ・「高いと感じる」と回答した割合を前回調査と比較した結果、「果物（輸入品）」と「加工食品（輸入品）」を除くすべての品目で割合が上昇した。
- ・割合が最も上昇したのは「生鮮野菜（国産品）」（前回比+15.8ポイント）で、次いで「加工食品（国産品）」（同+7.4ポイント）、「豚肉（国産品）」（同+6.3ポイント）の順となった。



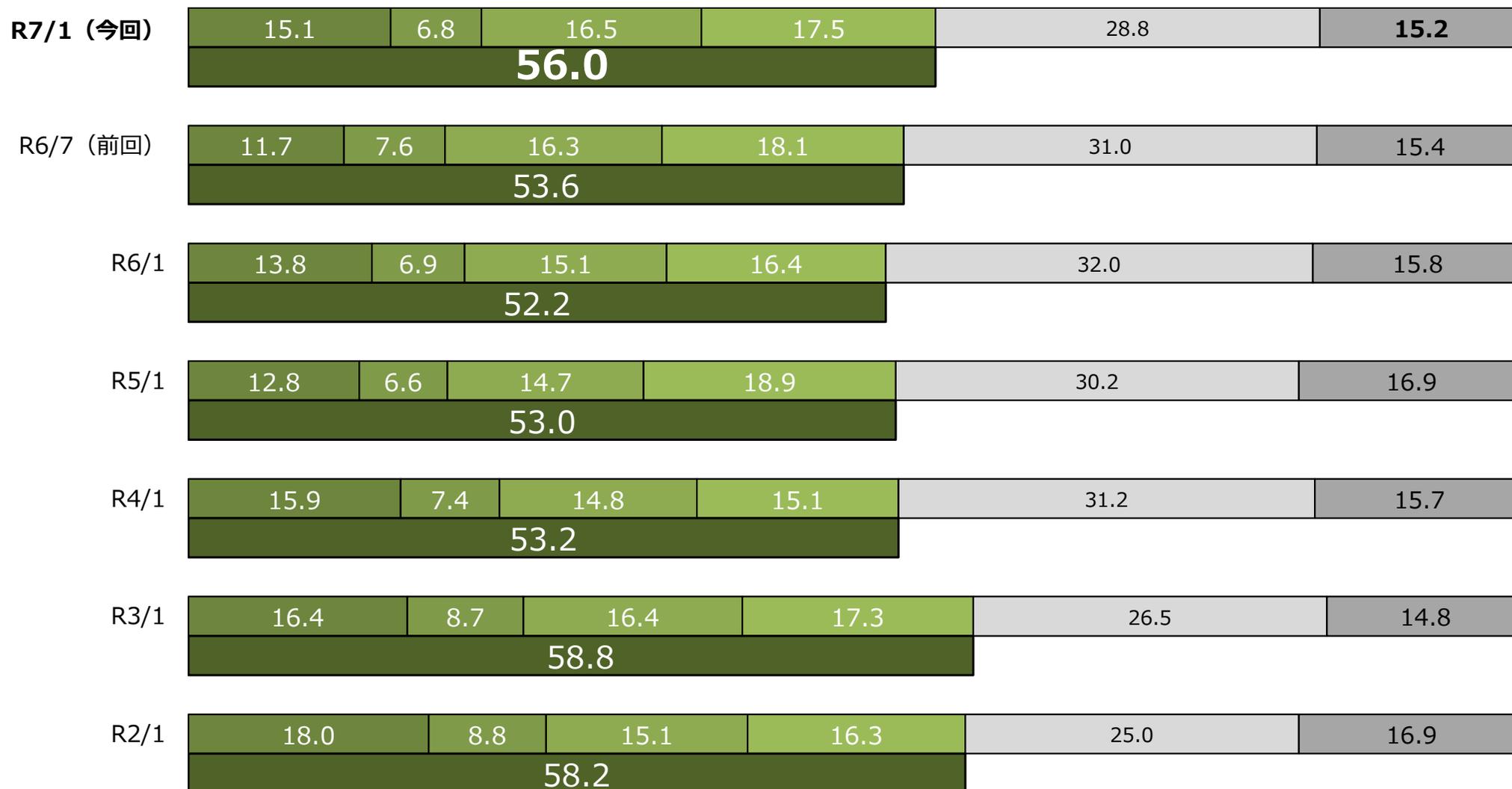
Ⅲ.国産食品の輸入食品に対する価格許容度

- ・“割高でも国産品を選ぶ”とする割合（56.0%、前回比+2.4ポイント）は上昇した。
- ・「国産品へのこだわりはない」（15.2%、同▲0.2ポイント）は横ばいとなった。

■ 3割高を超える価格でも国産品を選ぶ
 ■ 3割高までなら国産品を選ぶ
 ■ 2割高までなら国産品を選ぶ
 ■ 1割高までなら国産品を選ぶ
 □ 同等の価格なら国産品を選ぶ
 □ 国産品へのこだわりはない

割高でも国産品を選ぶ

(単一回答、%)



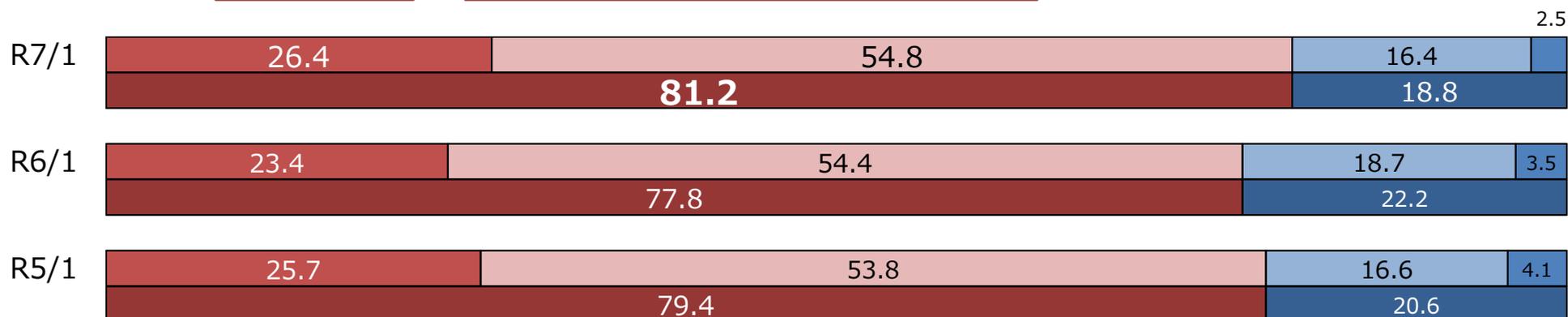
IV.日本の将来の食料輸入についての考え

IV-1. 日本の将来の食料輸入についてどのように考えているか

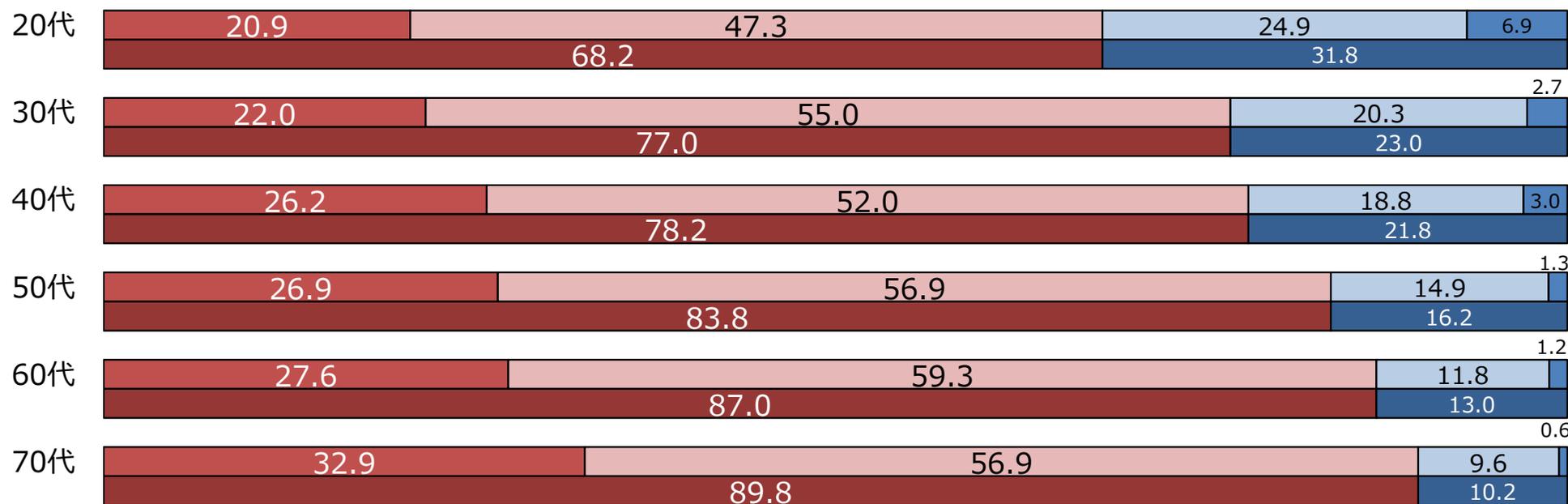
- ・日本の将来の食料輸入について、“不安がある”とする割合は81.2%（前回比+3.4ポイント）となった。
- ・年代別では、“不安がある”とした割合は年代が高くなるほど割合が高い傾向となった。

【継年データ】 **不安がある** (単一回答、%)

■ 非常に不安がある
 ■ ある程度不安がある
 ■ あまり不安はない
 ■ 全く不安はない



【年代別】



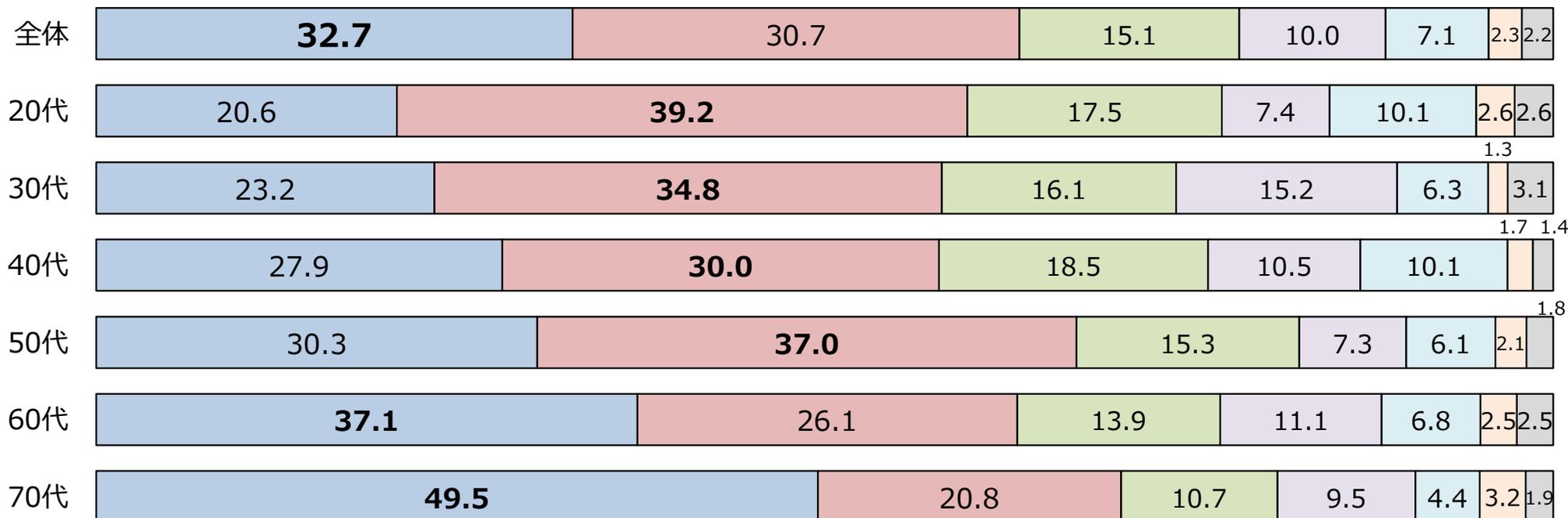
IV.日本の将来の食料輸入についての考え

IV-2. 日本の将来の食料輸入について不安があるとする理由

- ・日本の将来の食料輸入について“不安がある”とする理由は「気候変動や自然災害が輸出国における食料生産に影響を与え、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから」(32.7%)が最も高くなった。
- ・年代別では、60代、70代は「気候変動や自然災害が輸出国における食料生産に影響を与え、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから」、20代～50代は「紛争や政治的な緊張、輸出国の政策変更などにより、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから」が最も高くなった。

(単一回答/「非常に不安がある」「ある程度不安がある」と回答した方、%)

- 気候変動や自然災害が輸出国における食料生産に影響を与え、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから
- 紛争や政治的な緊張、輸出国の政策変更などにより、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから
- 燃料価格の上昇や物流の問題により、輸送コストが増加し、価格が高騰する可能性があるから
- 世界人口の増加により、世界的な食料需要が増加し、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから
- 新興国の経済成長により、日本の購買力が相対的に低下することで、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから
- とうもろこしなどを原料とするバイオ燃料需要が増加し、穀物の供給量が減ることで、価格が高騰する可能性があるから
- その他



V.健康的な食事のための食料品の購入と食料品店舗へのアクセス状況

V-1.健康的な食事のための食料品の購入

〔※本調査における「健康的な食事」とは、健康な心身の維持・増進に必要な栄養素がバランスよく摂れる食事のことを指します。〕

- ・健康的な食事のための食料品の購入が手頃な価格で「全くできていない」（3.1%）、「ほとんどできていない」（6.6%）、「あまりできていない」（35.8%）を合わせた“できていない”とする割合は45.4%となった。
- ・年代別では、40代は“できていない”とする割合が5割を超えた。

できていない

□ 全くできていない

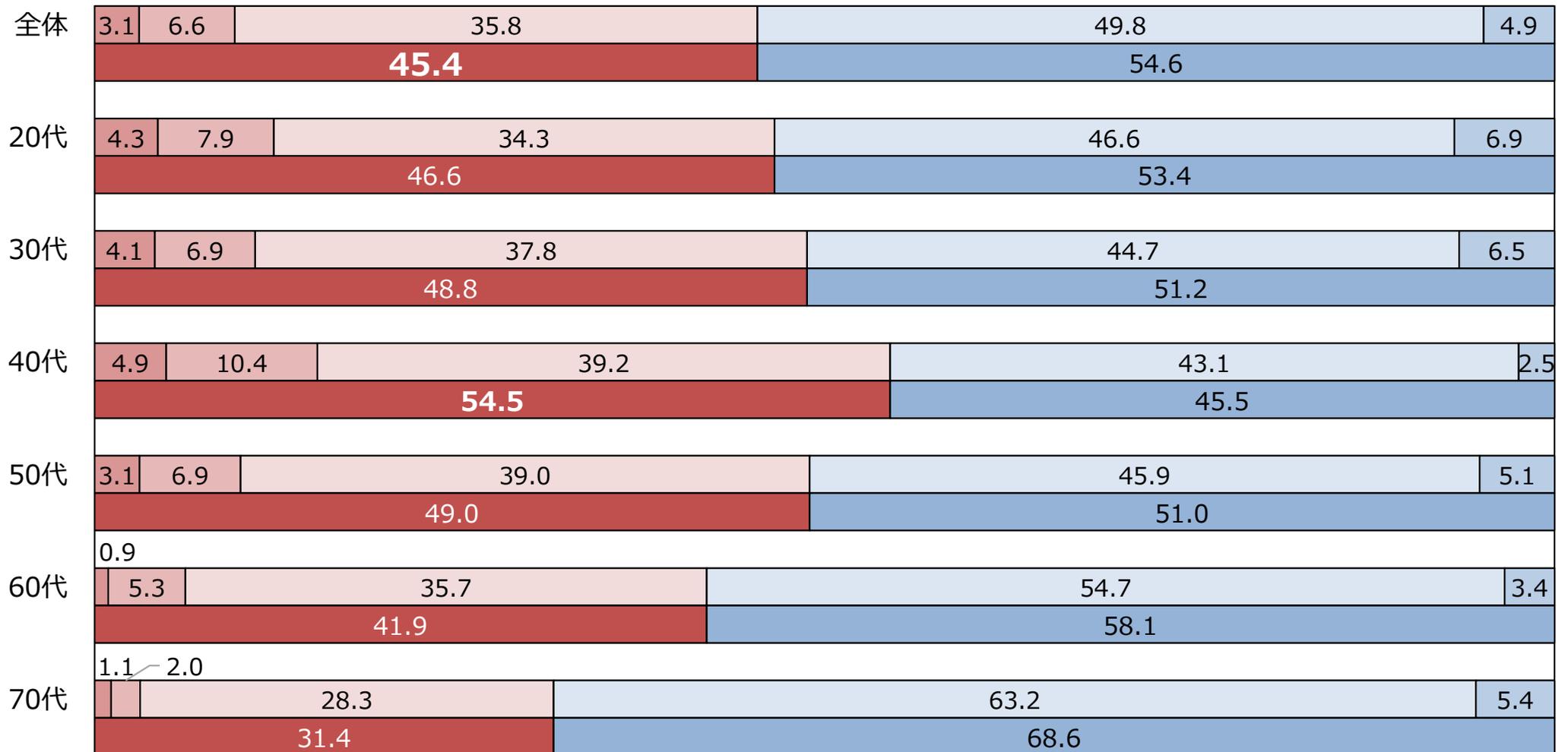
□ ほとんどできていない

□ あまりできていない

□ ある程度できている

□ 十分にできている

(単一回答、%)

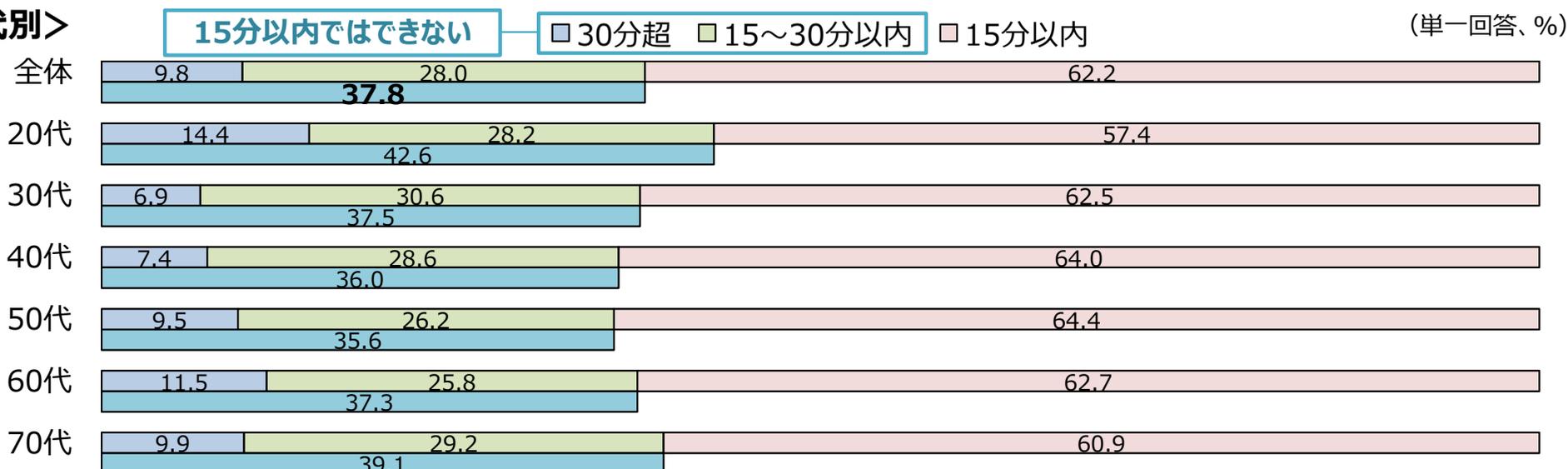


V.健康的な食事のための食料品の購入と食料品店舗へのアクセス状況

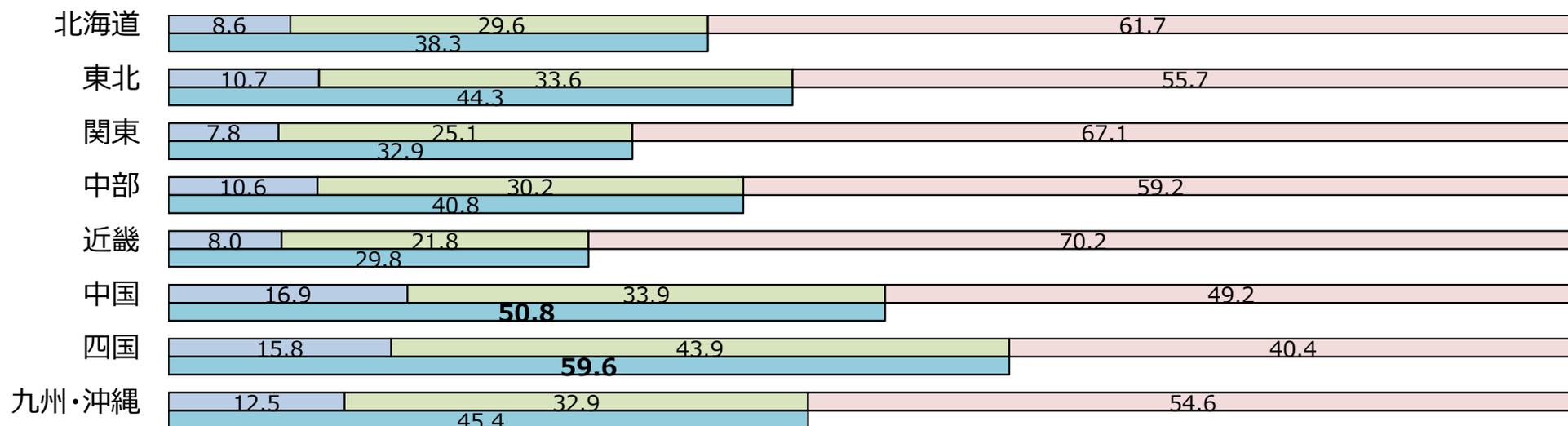
V-2.食料品店舗へのアクセス環境

- ・公共交通手段の利用または徒歩によりどのくらいの時間で食料品店舗にアクセスできるかについて、“15分以内ではできない”とする割合は37.8%となった。
- ・地域別では、中国、四国において“15分以内ではできない”とする割合が5割を超えた。

<年代別>



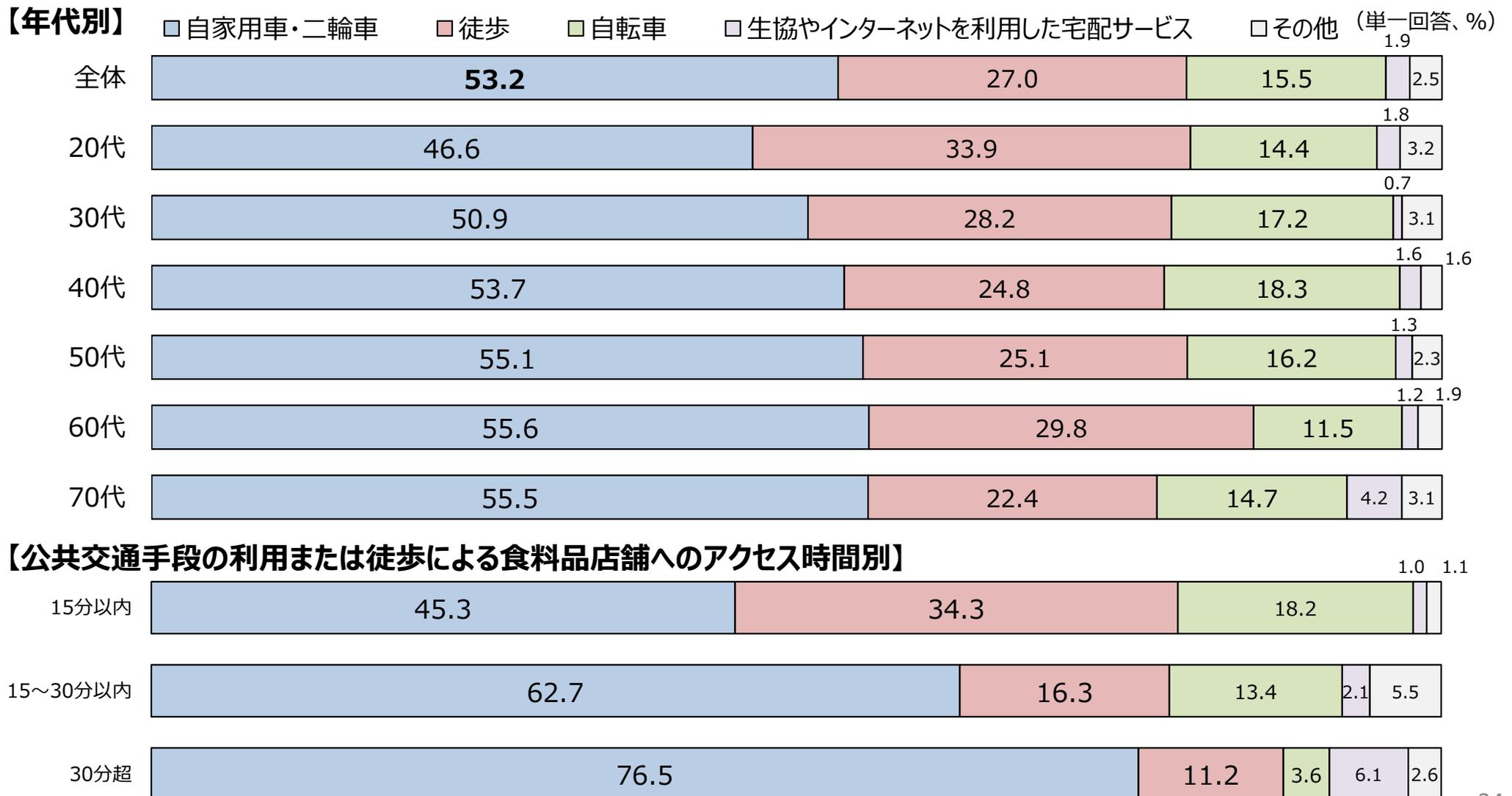
<地域別>



V.健康的な食事のための食料品の購入と食料品店舗へのアクセス状況

V-3.食料品店舗にアクセスする手段

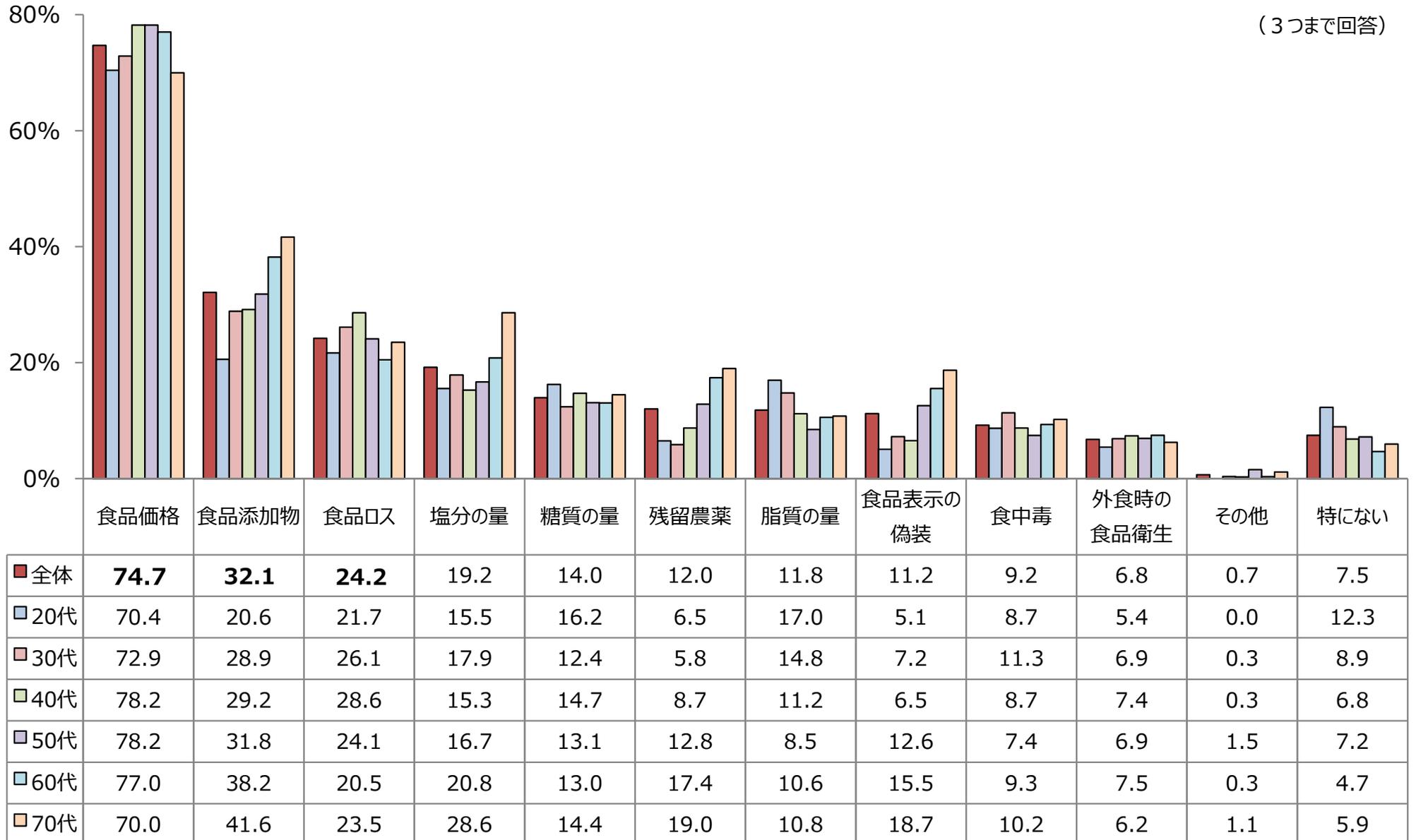
- ・食料品店舗へのアクセスで最も利用する交通手段は、「自家用車・二輪車」(53.2%)が最も高くなった。
- ・公共交通手段の利用または徒歩による食料品店舗へのアクセス時間が長くなるほど「自家用車・二輪車」を選択する割合が高くなった。



V.健康的な食事のための食料品の購入と食料品店舗へのアクセス状況

V-4.普段購入している食品について懸念していること

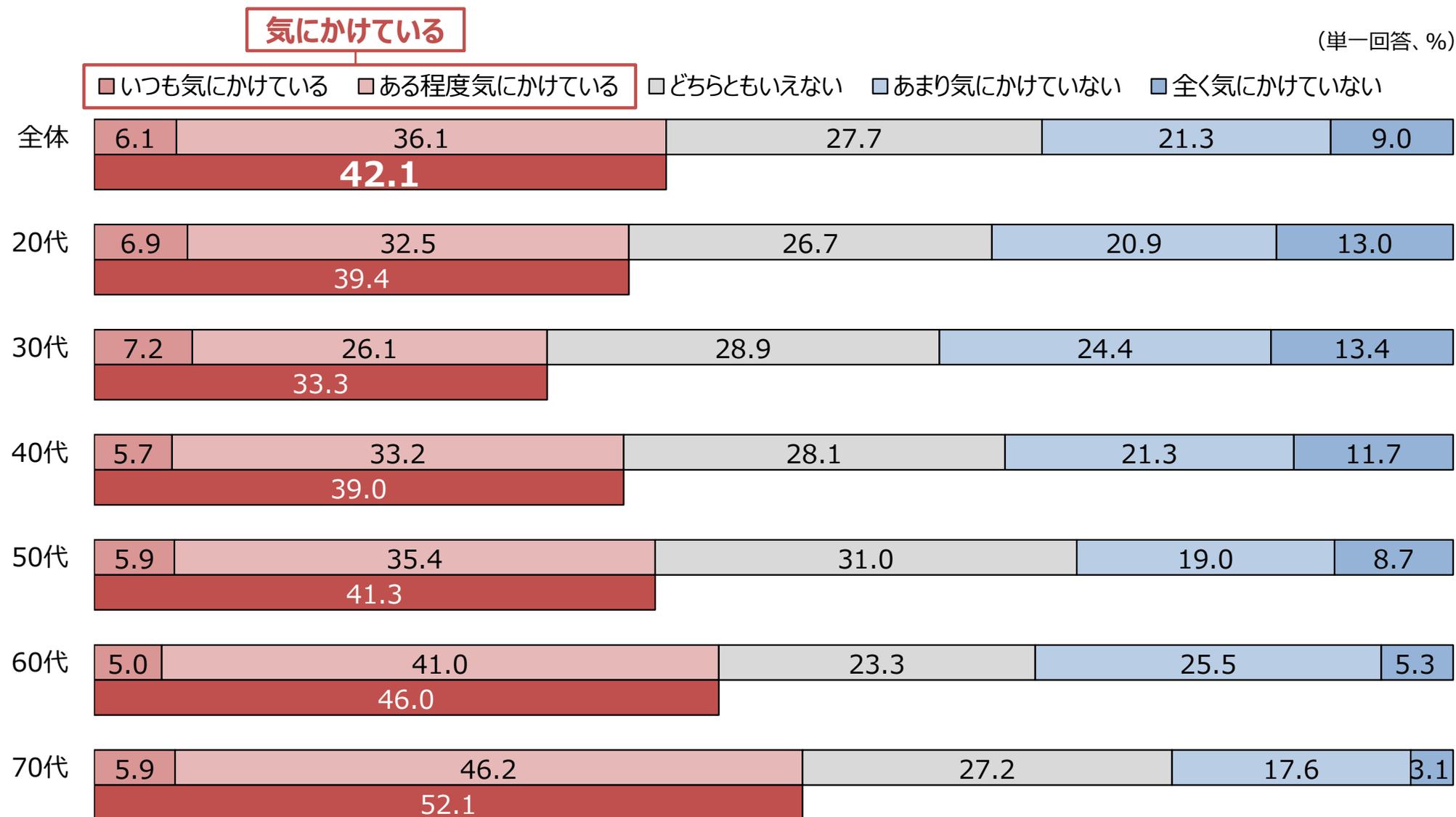
・「普段購入している食品について懸念していること」は、「食品価格」(74.7%)が最も高く、次いで「食品添加物」(32.1%)、「食品ロス」(24.2%)の順となった。



VI.環境に配慮した農産物・加工食品の購入

VI-1.環境に配慮した方法で栽培された農産物かどうかを気にかけるか

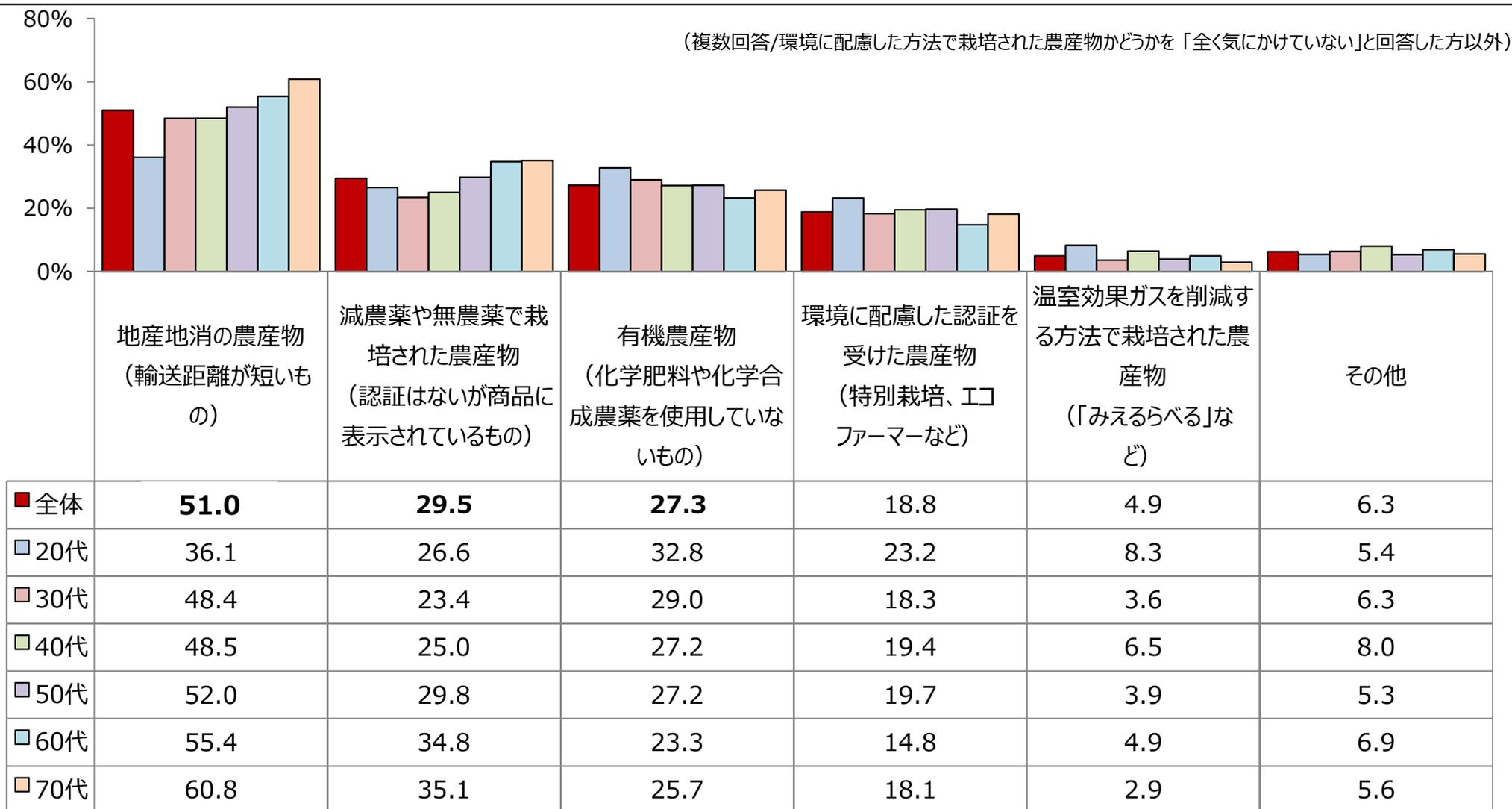
- ・農産物購入時、環境に配慮した方法で栽培された農産物かどうかを“気にかけている”とする割合は42.1%となった。
- ・年代別では、“気にかけている”とした割合は70代が最も高く、30代が最も低くなった。一方で「いつも気にかけている」とした割合では30代が最も高くなった。



VI.環境に配慮した農産物・加工食品の購入

VI-2.環境に配慮した方法で栽培された農産物として、よく購入するもの

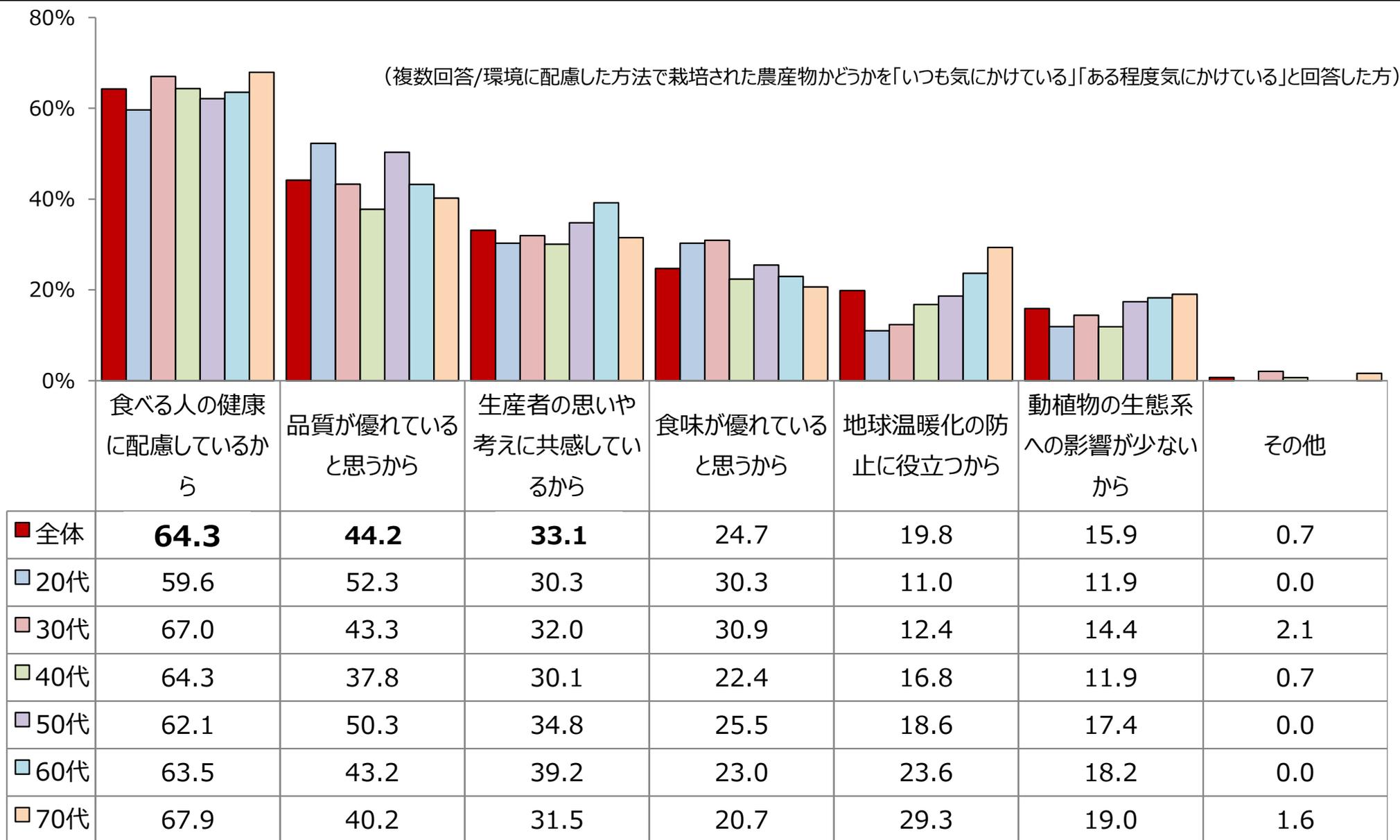
- ・環境に配慮した方法で栽培された農産物としてよく購入するものは「地産地消の農産物」（51.0%）が最も高くなった。
- ・「地産地消の農産物」は年代が高くなるほどよく購入すると回答した割合が高くなった。
- ・「有機農産物」はおおむね年代が低くなるほどよく購入すると回答した割合が高くなった。



VI.環境に配慮した農産物・加工食品の購入

VI-3.環境に配慮した方法で栽培された農産物を選ぶ理由

・環境に配慮した方法で栽培された農産物かどうかを“気にしている”と回答した方が、環境に配慮した方法で栽培された農産物を選ぶ理由は「食べる人の健康に配慮しているから」（64.3%）が最も高くなった。

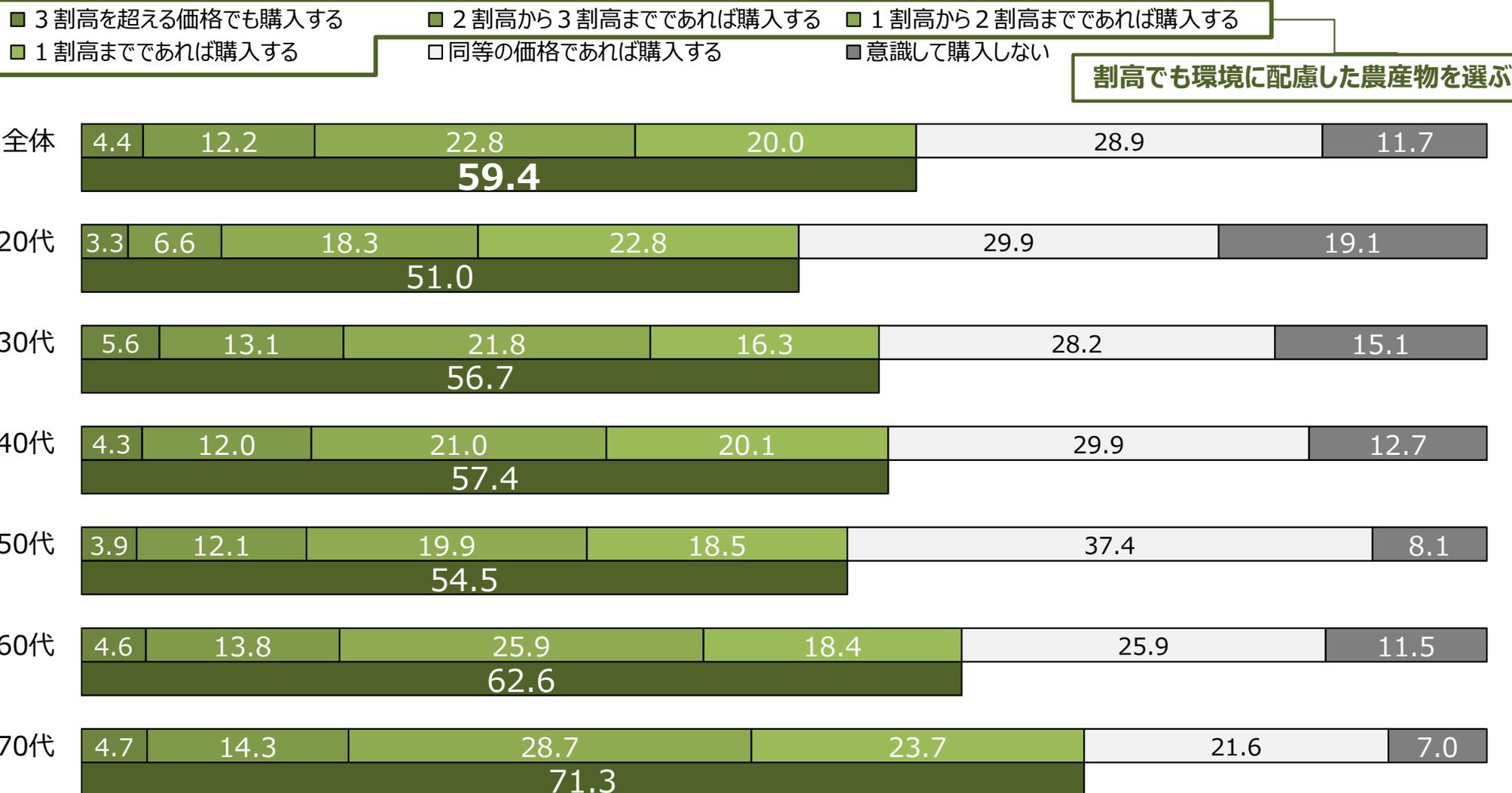


VI.環境に配慮した農産物・加工食品の購入

VI-4.環境に配慮した方法で栽培された農産物の購入における価格許容度

- ・環境に配慮した方法で栽培された農産物について、そうでない農産物と比べて価格が高くても購入したいと思うか尋ねたところ、“割高でも環境に配慮した農産物を選ぶ”と回答した割合は59.4%となった。
- ・年代別では、20代～50代は5割台、60代では約6割、70代では約7割となった。

(単一回答/環境に配慮した方法で栽培された農産物かどうかを「全く気にかけていない」と回答した方以外、%)

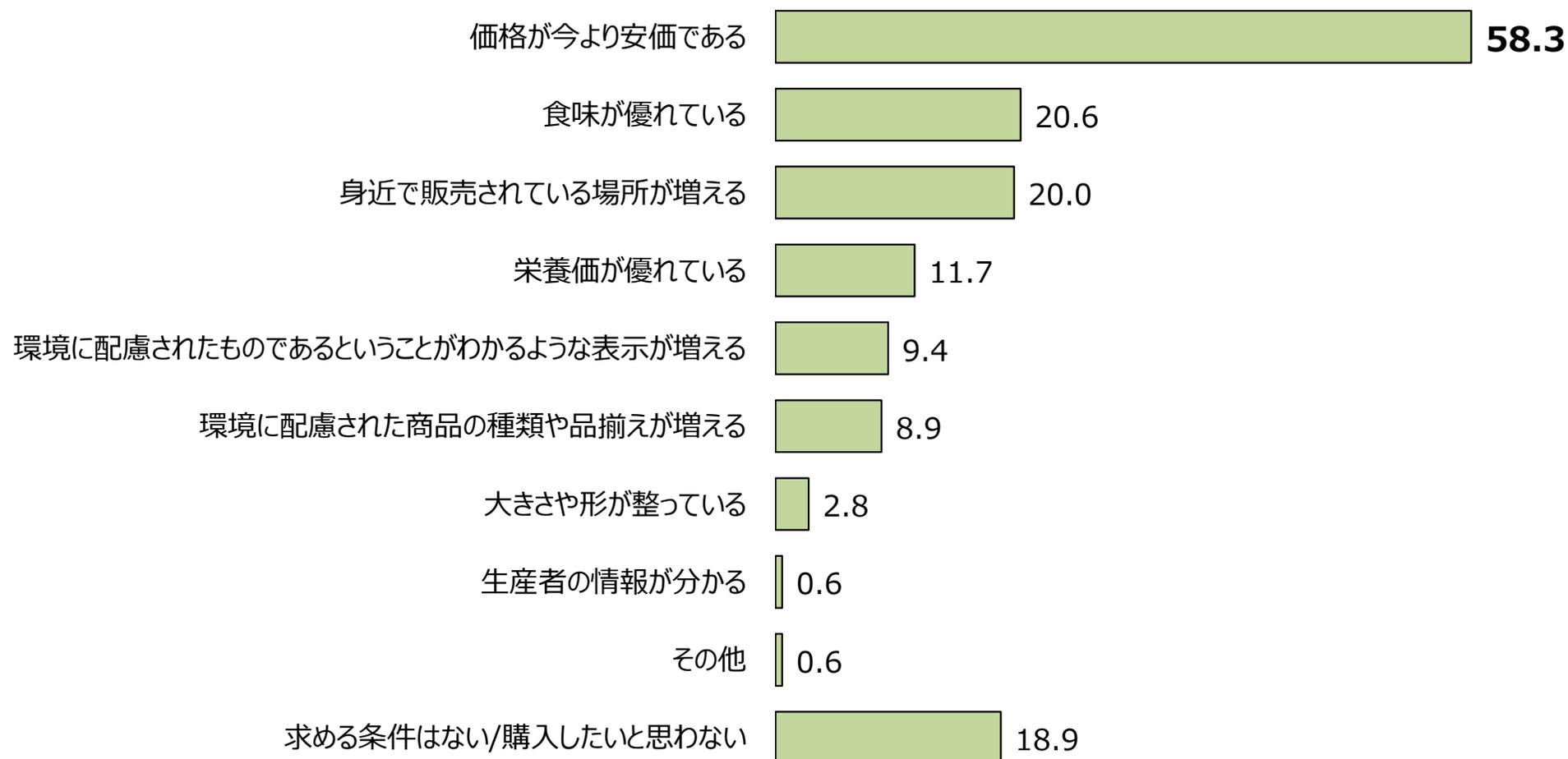


VI.環境に配慮した農産物・加工食品の購入

VI-5.環境に配慮した方法で栽培された農産物を購入するために求める条件

・環境に配慮した農産物かどうかを「全く気にかけていない」と回答した方に、環境に配慮した方法で栽培された農産物を購入するために求める条件を尋ねたところ、「価格が今より安価である」(58.3%)が最も高くなった。

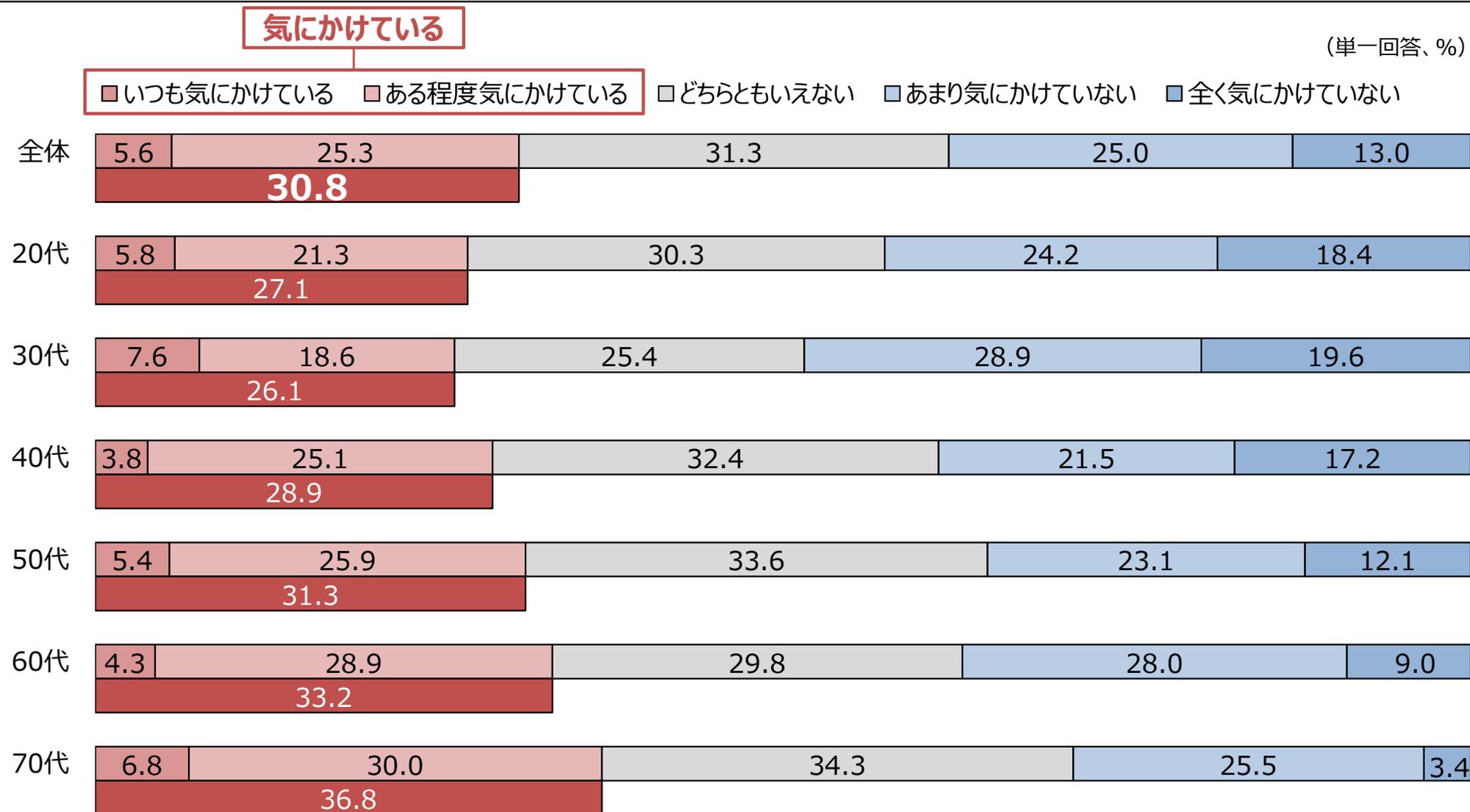
(2つまで回答/環境に配慮した方法で栽培された農産物かどうかを「全く気にかけていない」と回答した方、%)



VI.環境に配慮した農産物・加工食品の購入

VI-6.環境に配慮した方法で生産された加工食品かどうかを気にかけるか

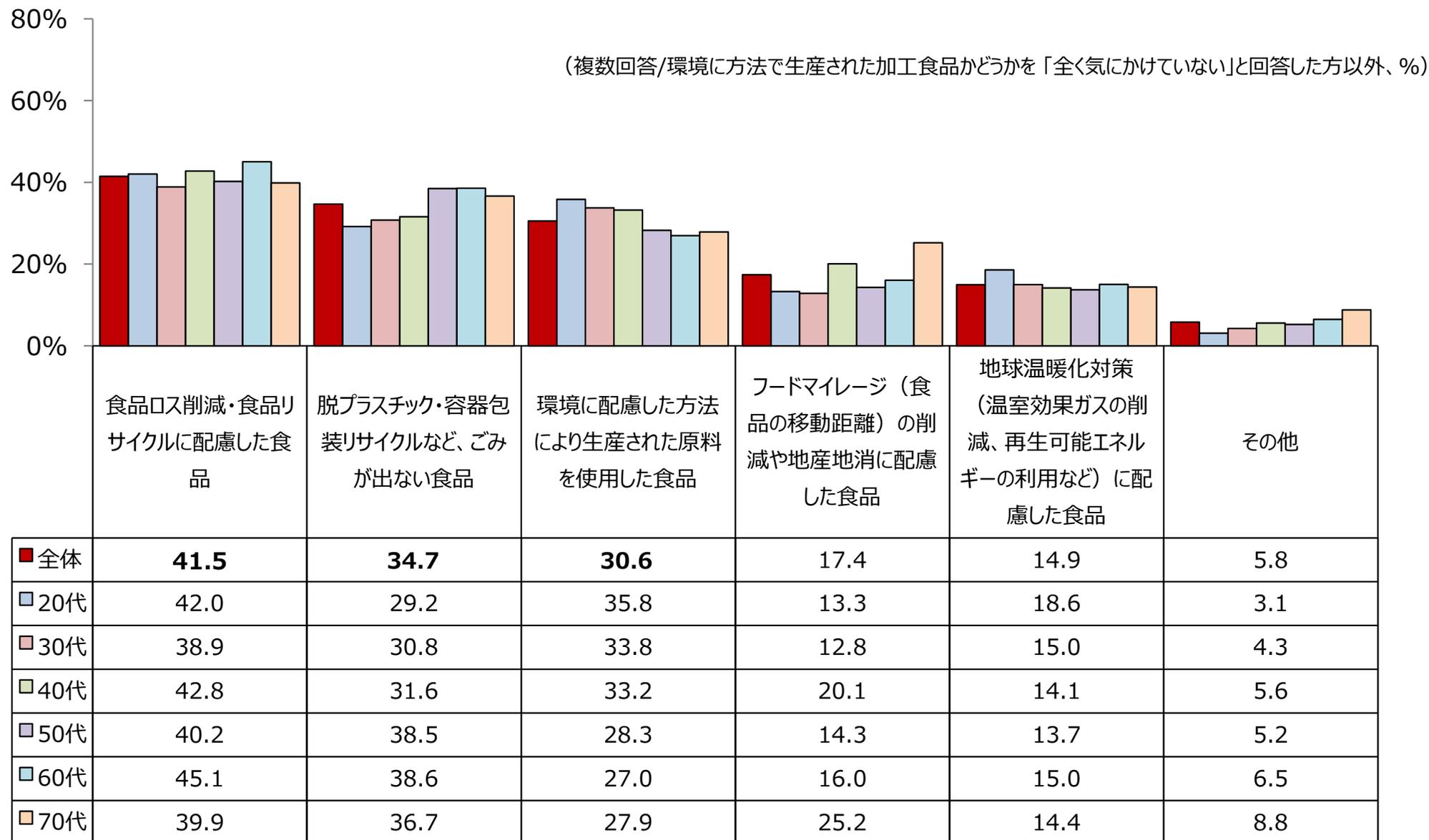
- 加工食品購入時、環境に配慮した方法で生産された加工食品かどうかを“気にかけている”とする割合は30.8%となった。
- 年代別では、“気にかけている”とした割合は70代で最も高く、30代で最も低くなった。一方、「いつも気にかけている」とした割合は30代が最も高くなった。



VI.環境に配慮した農産物・加工食品の購入

VI-7.環境に配慮した方法で生産された加工食品として、よく購入するもの

・環境に配慮した方法で生産された加工食品としてよく購入するものは「食品ロス削減・食品リサイクルに配慮した食品」(41.5%)が最も高かった。

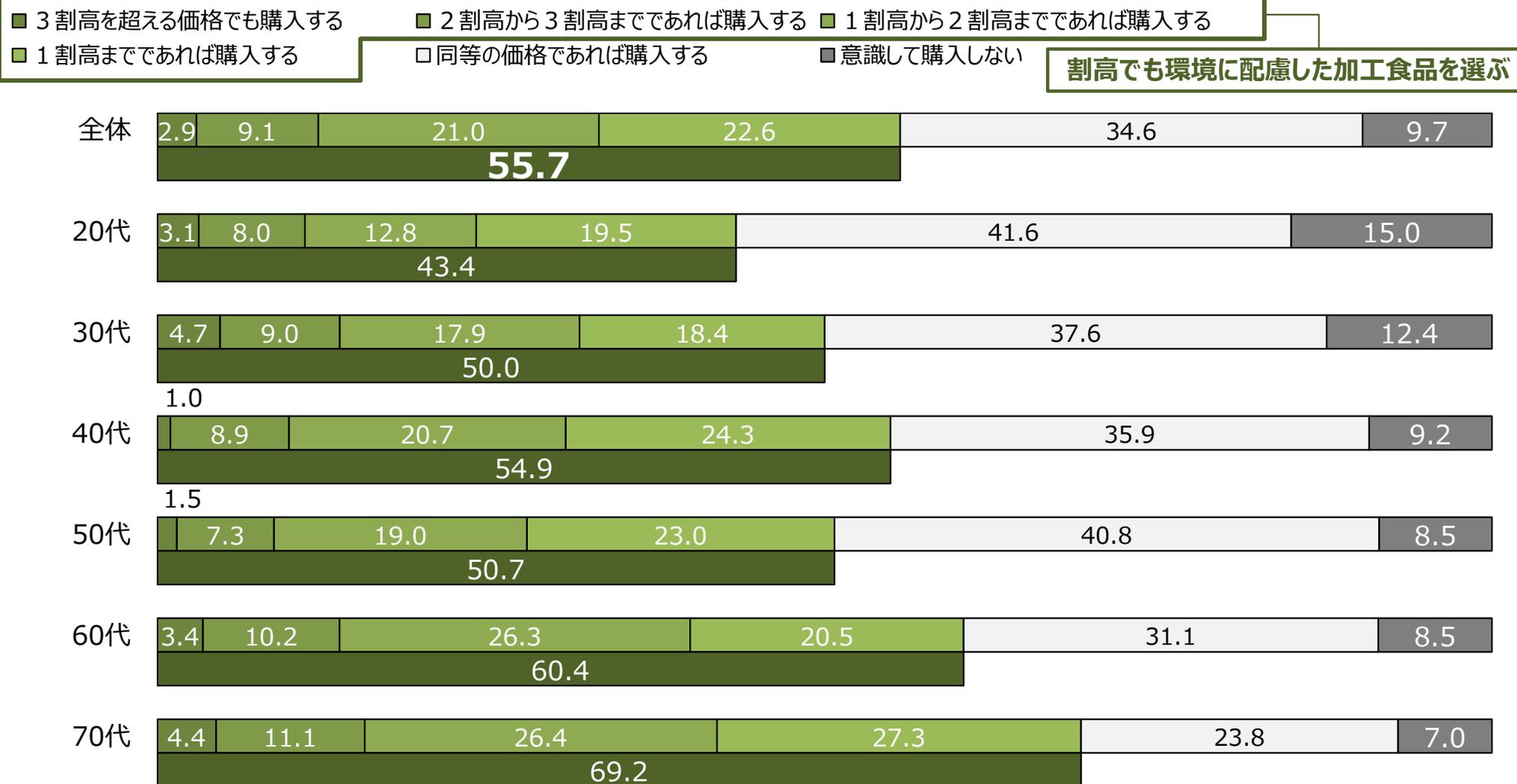


VI.環境に配慮した農産物・加工食品の購入

VI-8.環境に配慮した方法で生産された加工食品の購入における価格許容度

・環境に配慮した方法で生産された加工食品について、そうでない加工食品と比べて価格が高くて購入したいと思うか尋ねたところ、“割高でも環境に配慮した加工食品を選ぶ”と回答した割合は55.7%となった。

(単一回答/環境に方法で生産された加工食品かどうかを「全く気にかけていない」と回答した方以外、%)



VI.環境に配慮した農産物・加工食品の購入

VI-9.環境に配慮した方法で生産された加工食品を購入するために求める条件

・環境に配慮した加工食品かどうかを「全く気にかけない」と回答した方に、環境に配慮した方法で生産された加工食品を購入するために求める条件を尋ねたところ、「価格が今より安価である」（54.4%）が最も高くなった。

（2つまで回答/環境に方法で生産された加工食品かどうかを「全く気にかけない」と回答した方、%）

